

百匁内上物七割四十七貫四十匁此價拾壹圓七拾六錢屑物三割二十貫百六十匁此價壹圓六拾壹錢上物一貫貳拾五錢屑物一貫八錢以下之に準ず

四年目

金參拾四圓貳拾參錢貳厘 掛袋六千の七步留り 百六十八貫内上物百十七貫六百此價貳拾九圓四拾錢屑物六十貫四百此價四圓八拾參錢貳厘

五年目

金六拾六圓八拾四錢四厘 掛袋一萬二千の七分留り 三百三十六貫内上物二百三十五貫二百匁此價五拾八圓八拾錢屑物百貫八百匁此價八圓六錢四厘

六年目

金百圓參拾錢四厘 掛袋一萬八千の七分留り 五百四貫内上物三百五十二貫八百匁此價八拾八圓貳拾錢屑物百五十一貫三百匁此價拾貳圓拾錢四厘

七年目

金百貳拾圓四拾九錢 掛袋二萬千六百の七分留り 六百四貫八百匁内上物四百廿三貫三百六十匁此價百五圓八拾四錢屑物百八十二貫百四十四匁此價拾四圓五拾壹錢五厘

累年收支對照表

年次	收入	支出	損益
一年	11	35,450	損 35,450
二年	1	11,300	同 47,750
三年	13,370	26,525	同 60,905
四年	34,232	37,750	同 64,423
五年	66,844	57,800	同 55,379
六年	100,304	77,300	同 32,375
七年	120,490	87,160	益 9,550

以上は本縣に於ける桃栽培の收支概算にして勿論年に依り市價も亦變動あるものなれば大体の標準たるに過ぎず而して栽植七ヶ年にして初めて收支を相償ひ得るものとするも元來本縣の栽培地たるや山腹の瘠薄地にして到底普通作物を完全に作付し得ざる所なると且つ其栽培家は何れも副業的經營なるを以て支出計算に算出せる勞働賃の如きは支拂を要せざるを以て栽培家の剩す所は計算の比にあらざれば比較的有利なる作物と爲し如上の發達を見るに至りしものなるべし

第十九、生産及輸出

今左に郡市別生産額の累年調査を掲ぐ

郡市名	岡		御		年次	栽培本數	見積反別	收穫高
	山	津	津	山				
三	三	三	三	三	三	四	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十
八	七	三	二	一	九	八	七	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年
						一一二、三三一	九三、六一	一七一、五九五
						八五、六六六	七一、三九	一〇八、八〇七
						一八七、一八三	一五九、九八	二五九、三一五
						一七七、六六二	一四八、〇五	二二〇、六八四
						一八五、二九八	一五四、〇一	二一九、一五九
						一七六、〇〇〇	一四六、六六	一七七、八六四
						一三一、八五五	一〇九、八八	一四七、五〇八
						一一〇、二六〇	九一、八八	一一一、八一三
						八三、三九〇	六九、四九	六一、一二七
						一、六一五	一、三四	二、一〇〇
						二八九	二四	一、一五三
						二八八	二四	一、一四
						二五〇	二二	四二八
						三九八	三三	三二七
						四〇〇	三三	三六〇
						四五〇	三七	二五〇

郡市名	赤		和		邑		年次	栽培本數	見積反別	收穫高
	磐	氣	氣	久	久	久				
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	一	二	三	四	四	四	四	四	四	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
										一三六、六三一
										一四三、〇六四
										一四〇、二七九
										一五八、四八六
										二二六、三八七
										六、六七〇
										八、〇八〇
										一〇、〇二二
										九、三一〇
										八、七四九
										八、九六五
										一〇、五八四
										四、六二二
										六、八三七
										一七、五〇二
										一九、二二七
										二四、八七五
										二四、八八四
										二五、二一一
										二二、二二
										七、二九
										七、七六
										八、三二
										六、七三
										五、五五
										一八〇、三二
										一三二、〇七
										一一六、八九
										一一三、八九
										一一三、〇七
										八、八二
										三、八五
										五、七〇
										一四、五九
										一六、二二
										二〇、七三
										二〇、七四
										二二、〇一
										二七、〇一八

上			兒			都		
道			島			窪		
三	三	三	三	三	三	三	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十
七	七	七	七	七	七	七	七	七
年	年	年	年	年	年	年	年	年

一七、二四一
二五、一九九
二六、四三八
二二、二二〇
二三、七五〇
二八、〇六四
二三、九四四
八、〇一〇
一〇、九〇四
一一、五二〇
一二、七一
一四、五七〇
一四、九二五
一六、八六〇
一〇、四九四
一一、七〇〇
一八、二五五
一九、一八四
二四、九九九

一四、三七一
二一、〇〇〇
二二、〇五
一八、五二
一九、七九
二五、三九
一九、九五
六、六八
九、〇九
一〇、四三
一〇、五九
一一、一四
一一、四四
一四、〇五
八、七五
一〇、五八
一一、二
一五、九九
二〇、八三

五五、七六〇
三四、五四三
四一、三九六
四一、三三三
四一、九六三
四九、五二六
四六、九九九
二、〇一八
七、一一九
一〇、二八九
一〇、一四〇
一三、七五四
二一、五〇〇
二七、四二二
七、四五四
一〇、二二
一一、五三九
一二、四七六
二九、九九八

淺			小		
口			田		
三	三	三	三	三	三
十	十	十	十	十	十
七	七	七	七	七	七
年	年	年	年	年	年

二九、七〇八
三〇、六九六
一八、八五〇
一三、九〇〇
二五、二一五
三四、八九五
四四、三三三
六〇、七四五
七八、九七八
三九、三六〇
三四、六七六
六四、五五〇
七六、三七〇
七六、〇七九
四八、六六三
一四三、二五七
四、三四〇
一二、五八四
一四、一〇〇

二四、二五
二五、五八
一五、七〇
一一、五八
二一、〇一
二九、〇八
三六、九五
五〇、六二
六五、八二
三二、八〇
二八、九〇
五三、七九
六三、六五
六三、四〇
四〇、五五
一一九、三八

六七、九一〇
三〇、六八四
二四、四七〇
二八、一六八
二九、四六六
三二、六三〇
四八、三三八
四七、一八三
五五、二五四
一〇七、六九三
三三、八九五
七五、六六六
九六、九九四
一〇九、六七八
四五、七五二
二一四、一四〇
四、三〇五
七、八四一
一一、八五六

川			阿					眞				
上			哲					庭				
三	三	三	四	四	四	四	三	三	三	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	八	七	九	八	七	六	五	四	二	一	一	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	

一、七六二
 一、九七七
 二、九〇七
 三、八六二
 四、四九五
 五、二九六
 二、九三五
 二、六九五
 三、七九五
 三、九三〇
 三、九一一
 三、〇九
 二、八六一
 六、七六〇
 七、七一一
 五、三七六
 五、三八一
 五、八一九
 五、七七四

一、四七
 一、六五
 二、四三
 三、二二
 四、七一
 四、四一
 二、四三
 二、四三
 三、二六
 三、二八
 三、一六
 二、二五
 二、四三
 二、八六
 六、四三
 四、四八
 四、八五
 四、八一

二、一四五
 二、六九四
 五、九四三
 一七、一八五
 五、四四七
 二、一八五
 一、三五四
 一、四〇
 六九九
 七五四
 二、九八八
 一、〇九五
 六、一三
 二、〇七一
 二、六四七
 二、五七一
 二、五九二
 四、五〇五
 四、五四八

後			吉					上			
月			備					房			
四	四	四	三	三	三	三	三	三	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
一	二	三	七	八	九	一	二	三	七	八	九
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

二、〇五六
 二、四九二〇
 三、〇〇〇
 三、八七六
 三、〇三〇
 二、四三〇
 二、七〇四
 三、〇五五
 三、〇六五
 四、一七九
 四、一六九
 一、一七〇
 一、一八〇
 三、三一八
 三、五八五
 三、九九〇
 四、六七〇
 四、五五五
 一、六三二

一、七、五五
 二〇、七七
 三、五〇
 五、二六
 一、六、九六
 一、八、六九
 二、二、五四
 二、五、四八
 二、五、五〇
 三、四、八三
 三、四、三一
 一、〇、二五
 九、四八
 二、七七
 二、九九
 三、三三
 三、八九
 三、八〇
 一、六三

二、〇六一
 三、〇〇〇
 三、〇〇〇
 八、三、七〇
 一、五、九〇
 二〇、九四八
 一〇、七八五
 一、九、三九五
 二、五、五〇
 四、八、五六
 六、三、一九〇
 四、一、一七
 三、六、七七
 一、七、一三
 二、〇〇五
 二、二四三
 五、三三一
 三、四五四
 一、八、一四

英			勝			苦		
田			田			田		
四	三	三	四	四	四	三	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	八	七	三	二	一	九	八	七
年	年	年	年	年	年	年	年	年

六、一五四
八、七三五
八、八七六
九、一五
一一、二八二
一〇、五三八
一三、二四五
一一、九六二
一七、三〇三
二一、〇六〇
二五、四九六
二〇、五一〇
三六、七三〇
三六、七一〇
三六、二一五
六、一八三
五、八二五
七、八七〇
八、〇六五

五、一五
八、二八
七、四〇
七、六〇
九、四〇
八、七八
一一、〇四
一〇、八〇
一四、四二
一七、五五
二一、二五
一七、〇九
三〇、六一
三〇、九
三〇、一八
五、一五
四、八五
六、五六
六、七二

一、四七三
一、五六二
二、九五五
四、二四〇
五、〇二六
六、五七六
一一、〇四七
九、九七七
六、二一八
一三、八八九
一四、八三二
二二、四二二
二八、七三三
二〇、一一〇
三七、一三
四、三四五
一、二二二
二、〇七三
一、五一五

合			久		
計			米		
四	四	四	三	三	三
十	十	十	十	十	十
三	二	一	三	二	一
年	年	年	年	年	年

七、五四〇
七、七九〇
六、九一〇
五、三七〇
八、六五八
一一、〇三八
一一、四一五
一四、七八三
一五、二四三
一六、五六〇
三六、〇六三〇
四三、八、二七四
五五、二、〇〇三
六三、四、九三五
六八、五、九一八
七二、四、一七六
九〇、六、一一三

六、二八
六、四九
五、七六
四、四八
七、二二
九、二〇
一〇、五五
一一、三二
一一、七〇
一三、八〇
三〇、五二
三六、五、二二
四六、〇、四二
五二、九、一一
五七、一、六〇
六〇、五、四八
七五、五、一〇

一、四七三
一、六九四
一、四三五
三、〇四七
四、五六六
七、六五七
八、六五三
九、一二五
一〇、八三九
一五、三八三
四〇、一、七四
四八、九、六九三
六三、二、六三三
六六、七、九六七
八一、一、二九
九二、二、六九一
一、二四四、四〇四

兵須明加姫豐龍上福尾廣吳岩柳德小三下門小折

古ノ井田

庫摩石川路岡野郡山道島國津山郡尻關司倉尾

三三、五三九
一、〇四五
二、四八七
三、二九九
一〇、二四五
二、九七四
三、五八八
一、八八八
一、五八八
六、三七三
一、二八九
一、五五四
六、八一
二、一〇〇
二、八四〇
四、八八六
一〇、五八五
八、五六六
二、九五六

直吉鳥久大熊佐別佐長枇武綾宮生長其朝浦計

留牟世杷

方塚栖米田本賀府保崎島生部津濱野他鮮擔

二二
四三三
一
二一六
二六
四七八
二二三
三三三
三二四
一、三三〇
六、二三四
四六七
九四
一八七
九二
一七、四九八
三九三
一、六二五
二四五、七七八

第二十、桃の利用法

(岡山縣立農事試驗場試驗成績)

本縣に於ける桃の生産大部分生果の儘縣の内外に消費せらる然りと雖桃は元來久貯の性を缺き加ふるに従來栽培する處のものは殆ど天津上海の二種に偏し之等兩種の成熟期に當りては供給屢々需要を超過し爲に市價の暴落を來たすこと少なしとせず茲に於てか岡山縣立農事試驗場は生食以外の方面に新しき用途を見出し以て需給の狀態を調節するは實に刻下の急務なるを感ト先罐詰、ジャム、及乾果を製して之が經濟を調査し一面製造上の方法に就ても試験したり其大要左の如し

一、桃の罐詰

製造の大要

罐詰用果實の種類 主として供給潤澤なる上海水蜜桃を用ふ天津に至ては製造後果肉變色して外觀不良となるが故に採用せず
罐詰用果實の熟度 果面の綠色褪消して鮮明なる色澤を呈せるもの

果實の調理 先果實を清水にて洗ひ果を二つ割となし次に核を除き鐵板にて作りたる長五寸直径一寸二三分の圓筒の筒口に刃を附けたる除核器を用ふ最後に丁寧に剥皮し大果は六片とし小果は四片となす

糖液の製造 水一升到二百五十匁約半量の「ザラメ糖」を投入して煮沸溶解し卵白にて「アク拔」をなし濾過して放冷す

果肉の詰入及殺菌 調理を了へたる果肉は手早く罐内に詰め込みて僅に空處を存し之に糖液を注入すること九分目にして清淨なる布帛にて罐の口を拭ひ小蓋を覆ひて蠟着をなし沸湯中に投入して加熱すること約十分餘鐘の兩端膨脹して彈力を有するを程度として之を取出し瓦斯抜を行ひ直に冷水中に投入して冷却す一貫の生果にて一ポンド罐十個を得一罐約八匁内外の糖液を要す

罐の裝飾及荷造 殺菌後冷却せる罐は其兩端に假漆を塗布し胴に「レツタル」を貼附す斯くて裝飾を了りたるものは四打入の小函に填充して販賣に供す

一ポンド罐一ヶに對する收支計算

支 出

金參錢

罐代(二ポンド罐一ヶ)

金貳錢

桃代(一貫貳拾錢換一貫ノ生果ヲ十罐ヲ得ベシ)

金貳錢參厘

砂糖代(二貫壹圓拾五錢換一罐約二十匁ヲ要ス)

金壹錢

(果實調理詰入殺菌等ノ工賃及燃料代等一罐當リ)

金五厘

レツタル一枚

金五厘

箱代及荷造費(四打入一箱貳拾五錢)

計金九錢參厘

收 入

金拾錢

一ポンド罐一ヶ卸賣相場

差引金七厘

益 金

右の計算によれば生果十貫を以て百ポンドの罐詰を製し得べきが故に其純益七拾錢にして一家四五人の家族製造に従事するときは一日三十貫内外の生果を使用するは決して難事にあらず之に要する器具の如きも一挺又は二挺の鏝の外は殆ど自家用の器具にて足るが故に小栽培家が自家所産の原料に加工するに於ては其利益亦少なからざるべく眞に好箇の副業と謂つべきなり

附記 罐詰の製造は殆ど一ヶ年を通して製造に従事するものによりては大規模の經營

必しも不可ならずと雖ども或時期を限りて製造するものによりては寧ろ小規模にして器具機械等に多くの資本を投せざるを得策とす

罐詰用桃種類試験成績

生食用として優良なる種類必しも罐詰用に適するものと云ひ難し從來の罐詰は種類の何たるを論せず單に供給潤澤にして價額の低廉なるものを供用するの有様なりしも斯の如きは本業の發達を期する上に於て決して策の得たるものにあらず然るに我邦に於ては如何なる桃の種類か果して罐詰に好適するやを試験したるものなきが故に先現今栽培せらるゝ種類につき其適否を試験し可成良種を採用して成品の改良上進に力めざるべからず昨四十二年當場に於て行ひたる試験の成績左の如し

種類名	果肉ノ外觀	果肉ノ粗密	液ノ清濁	液ノ味	果肉ノ味	其	他
アムスデンジョン	中	粗	清	中	中ノ上		
アレキサンダー	中	粗	清	中	中ノ上		
アーリー、リバー	下	粗	稍清	上	中ノ上		
エルバルタ	中ノ上	密	濁	中	上ノ下		
カールマ	中ノ上	密	濁	中	上ノ下		
グロスマニョンド	上	稍密	濁	上ノ中	上		原料ノ熟度ヲ超へ外形稍損セシモ肉色可良ナリ
アチーフ							

種類名	果肉ノ外觀	果肉ノ粗密	液ノ清濁	液ノ味	果肉ノ味	其	他
離核水蜜桃	上	稍密	稍清	中	中		
フオスタ	中	密	濁	下	下	黄肉種 酸味乏シク一種ノ臭氣アリ	
上海水蜜桃	中	密	清	中	中ノ上		
マウンテン、ローズ	下	粗	濁	下	下ノ下	肉柔軟稍糜爛セリ	

右は僅に一回の試験に止まり未經々に適否を判定し難しと雖ども概して肉質緻密なるもの外觀良く味に至ては寧ろ稍酸味多きもの可なるが如し此他供試種類以外のものに於て曾て試製せし成績を附記せんに天津水蜜桃は其味不可ならざるも果肉變色して外觀不良となり金桃は外觀可良なるも酸味を缺き味良しからず「サルウェー」(黄肉)に至ては甘酸共に不充分なりき又離核性のものと粘核性のものとを比較するに除核器を使用するに於ては毫も作業の難易を認めざるのみならず粘核種は核と肉とが器具に依り切り難さるゝが故に果肉の内面平滑にして外觀寧ろ良好なりとす

糖量試験成績

糖液の製造に際し用ふる所の砂糖の分量により成品の味を左右すること大なり依て其適量を見出さんとすは本試験の目的なり

砂糖ノ分量	液ノ清濁	液ノ味	果肉ノ味	其	他

水ノ重量ノ半量	清	甘酸	適度	甘酸	適度
水ノ重量ノ七分	濁	甘酸	稍適度	甘味	稍多シ
水ノ同重量	濁	甘味強ク酸味足ラズ	甘キニ過グ	特異ノ點ナシ	

右の成績によれば甘味の濃淡は人により其嗜好を異にすべしと雖も水一升に二百五十匁(約半量に相當す)の砂糖を加へたるものを適當とすべきが如し尙本試験により糖液濃厚となるに従て液の清澄を妨ぐる傾あることを認めたり

殺菌時間試験成績

加熱時間の長短は殺菌の效果並に果肉の品質に影響すること大なるが故に其適度を知らんとするは本試験の目的なり

殺菌時間	製造ヶ數	腐敗ヶ數	果質ノ硬軟	果肉ノ味	其	他
五分	一〇	九	硬	中		
十分	一〇	一	稍硬	上		
十五分	一〇	〇	軟	上		
廿五分	一〇	〇	軟	上		

右の成績によれば五分間加熱區は殆ど殺菌の効力なく十分區尙充分ならざるの感あり

十五分及廿五分區にありては腐敗罐を出さず又加熱の爲肉質の劣變をも認めざるが故に結局十五分乃至二十分間加熱するを以て適度とすべきか

二、天津水蜜桃ジャム

製造の概要

「ジャム」製造に適する種類 「ジャム」用としては天津水蜜桃最好適す是果實酸味に富むが故に製品の風味良く加ふるに色澤頗美麗なるものを得べし此他の白肉桃及黄肉桃の如きは何れも外觀不良にして一種厭ふべき色を呈するに至る

果實の熟度 充分呈色し果肉稍軟きたるを可とす

果實の調理 罐詰用のものに全ト但し剝皮後細割し置くを可とす

煮詰 大なる蠟引鍋に細割せる果肉を入れ之にざらめ糖(果實の重量約七分)を加へ杓子にて攪拌するときは直ちに果汁砂糖と融和して多量の汁液を生ずるが故に爾後不絶攪拌しつゝ煮沸すること一時間を経れば液は漸次粘稠となるべし依て火力を弱め尙攪拌しつゝ煮詰むること更に一時間半を経れば大抵適度の濃さとなるべし煮詰の適度は杓子にて液を掬ひ上げ之を反轉するも速に墜落せざるが如くなるべしジャム

の製造には二重鍋を要するが如く考ふるものあるも決して然らず殊に二重鍋にては燃料及時間を要すること多大なるが故に營利的製造に際しては大なる蠟引鍋を用ふるを可とす

罐詰 煮詰りたるものは直ちに之を罐に詰入れ蠟着をなし冷水中に投入するものと煮詰めたるものを一旦放冷し之を罐に詰め入れ蠟着して殺菌すること罐詰の如くするものありと雖ども大抵前法にて差支なし一貫の生果にて七ポンド内外の「ジャム」を得べし

「ジャム」製造收支計算 (一罐に就て)

支 出

- 金貳錢八厘 七分罐一ヶ代
- 金貳錢 桃代(一貫目拾五錢換一貫にて七罐を作り得へし)
- 金八錢 砂糖代(一貫目壹圓拾五錢換一罐十七匁を要す)
- 金五厘 レッテル代
- 金貳錢 其他の諸費用(工賃燃料箱代等)
- 計金拾五錢參厘

收 入

- 金拾七錢 成品一罐卸賣相場
 - 差引金壹錢七厘 益 金
- 前表は天津水蜜桃一貫の價を拾五錢と見做して計算したるも盛に成熟する時季に於ては更に一層安價となること少なからず斯かる時期に際して其の一部を「ジャム」に製造するに於ては其利益亦少なからざるべし

三、上海水蜜桃干果

製法の概要

干果に適する種類 一般に黄肉種は成品の外観良にして干果の原料に適するも未原料豊富ならず天津は乾燥の爲め暗赤色に變して外観醜く上海に至ては外観黄肉種に及ばざるも左迄不良ならず

果實の熟度 果皮の綠色褪消して色澤鮮明となりたるときとす未熟のものは成品透明の質を缺ぎ過熟のものは操作中果肉崩壊して形狀を損し易し

果實の調理 二つ割となし除核剝皮すること罐詰の場合に同ト爾して剝皮は成品の

外觀に影響すること大なるが故に最も鄭重なるを要す

果肉の亞硫酸瓦斯燻蒸 調理を了へたる果肉は断面を上に向けて罎櫃の上に並べ燻蒸器内に挿入し麥稈晒し函様のもの又は藪乾燥器様のものにて可なり(硫黄を燃焼して亞硫酸瓦斯を發生せしむるときは酸化作用より來る果肉の變色と腐敗性を防止するの効あり燻蒸の時間は約五六分果肉の表面水分を失ひ稍白味を帯びたるを度として燻蒸を止むべし)

乾燥 乾燥に三様あり一は全く陽干するもの二は火力にて干燥するもの三は陽熱及火力に由て乾燥するものは是なり陽干にありては毫も燃料を要せざる代りに乾燥に要する時間長く干燥中偶々降雨に遭遇せんか其の品質を損すること大なるが故に安全の方法と稱すべからず左れども無難に乾燥するに於ては其品質比較的優良なり火力乾燥に至ては短時間にて安全に乾燥し得るも燃料に費用を要し品質稍劣るを免れず陽熱火力併用は最も經濟的方法なるべきか

前項の瓦斯燻蒸を了へたるものは少量ならば其儘器内にて乾燥し大量ならば特に設けたる乾燥室に搬入して乾燥するなり彼の殺菌乾燥器又は麥稈晒函の如きものは少量の乾果を製する場合に代用するを得べし又特に乾燥器として作られたるものには

〔デソメルマンズ〕乾燥器の如きものあり大量のものに至ては大なる殺菌乾燥室は最も干果用に好適す(當場に於ては林式殺菌乾燥室を用ひたり)

火力乾燥の温度は華氏百四五十度前後を可とし之より高温となるは良しからず蓋し温度高きときは乾燥急激に失し成品光澤を失ひ透明の質を缺くに至ればなり而して果肉の厚薄室内の位置等により多少乾燥の程度を異にするが故に時々上下左右を轉換して平等に乾燥せしむることに力め適度に乾燥せるものより漸次拾ひ出すべし數回の實驗によれば桃は全部火力にて乾燥するときには三十時間乃至三十五時間を要す

桃の干果收支計算

支 出

金貳拾圓

上海水蜜桃百貫代(一貫貳拾錢換)

金四圓

果實調理女十人(一日參拾錢)乾燥準備男二人(一日五拾錢)

金壹圓五拾錢

乾燥人夫男三人

金壹圓九拾貳錢五厘

石炭三百五十斤(百斤五拾五錢換)

金壹圓

雜費

計金貳拾八圓四拾貳錢五厘

收 入

金參拾圓八拾錢

乾果十四貫代(百目貳拾貳錢換)

差引金貳圓參拾貳錢五厘

益 金

右の計算によるときは生果百貫を乾燥して僅かに貳圓餘の利益あるに過ぎず爾も火力乾燥によるときは多少の設備をも要すること、て之等に要する資本の利子及損料等を計上するに於ては或は收支相償はざるに至るやも未だ知るべからず従て乾果の製造は現今の桃の價にては營利事業としての望薄きものと云ふべし

附 干桃調理法

桃の乾果は未内地にては殆ど用ひらるゝ所なく従て之が料理法の如きも不明なるが故に特に村井弦齋氏を煩はして之が研究を乞ひたるに左の如き料理法を示されたり

第一、煮 桃

先干桃を二時間程水に漬おき好く洗ひ鍋に入れ桃の隠るゝ程水を入れ一時間煮て砂糖を加へ弱火にて一時間半程煮詰め酒石酸を極少量加へ又三十分程煮冷して用ふ

第二、蒸 桃

二時間程水に漬けたる桃をよく洗ひ軟くなる迄蒸し別の鍋に少量の水と砂糖を加へて煮立て前の桃を入れさつと煮て用ふ

第三、桃の「テンプラ」

半日程水に漬け置きたる桃をよく洗ひ細かに切り米利堅粉大匙二杯に卵一ヶ砂糖一杯の分量にて水を加へどろくのものにして油にて揚げる

第四、桃の「オムレツ」

半日程水に漬置きたる桃を刻み「パテ」にてよく痛み別に卵二ヶ牛乳大匙一杯砂糖小匙二杯鹽少量をよく交せ前の桃を交せて「オムレツ」に焼く

第三編 梨

第一、沿革

本縣に於ける梨園の開設は慶應元年舊足守藩足守附近吉備足守町附近に栽植せるを以て嚆矢とす之が來歴を聞くに足守藩主木下備中守利泰上州前橋地方に於ける梨樹栽培の利益多きを聞き藩業を以て領内不毛地利用の爲め梨樹の栽植を企圖し上州松平家に知照し文久三年三年遂に小臣大月市之助福田龜藏田口作次郎の三名を撰拔派遣し上野國勢多郡大島村の老農關口長左衛門に就き栽培の術を講習せしむ翌元治元年派遣員より早種六月晚種六月早泡雪本泡雪小雪雪通し小朝鮮赤龍等の穂木を送致せしかば領内河原村頓田宇次郎なるもの接木の妙技を修たるを以て砧木を讃岐國に求めて繁殖せしめたり斯くて派遣員の上州に留ると一年九ヶ月慶應元年十一月歸藩せり因て藩公は銀十五兩宛を慰勞として賞與し尙切米十五俵と三人扶持を給し豫て繁殖せし苗木は之を領内の不毛地たる大井村字馬場山に一千株粟井村字柏尾に四百株東山の内村に一千株

足守村字寺坂に五百株同村字一國に五百株同村字坂井に五百株牛石村門前に三百株同村字下土田に三百株總計四千五百株此反別六町歩一反歩に付七十五株植を栽植し藩の小人を以て之が管理の事に當らしめ前記講習員三名をして巡回指導せしめけるに發育佳良前途大に望を属し之が擴張を計らんとするに際し時恰も明治二年の領土奉還となり藩業爲めに棄たれ遂に當初の企圖を完ふするに至らずして已みたるは惜むべし然れども藩業廢棄の際に於て棚梨一株に付赤札足守藩札にして廢藩後通用八厘三匁立梨一株二匁五分の割を以て領内各希望者へ分與せしより福田等熱心に栽培を繼續せしかば現今本縣下に於て最も廣く栽培せらる、赤龍種の如きは是より漸次各地に傳播し四十年後の今月本縣重要物産の一に數へらる、に至れり是實に故木下備中守の餘澤に因るものと謂はざるべからず

足守地方に於ける梨樹の栽培は遂に斯の如くにして頓挫したり然れども是より縣下各地に於て梨樹の栽培に志すもの漸く多く明治初年の頃備前國兒島郡福田新村(福田村)に高橋重吉なるものあり偶々備中國賀陽郡吉備郡高松なる地蔵の市今尙年々開催し苗木類の賣買盛なりより梨苗二本を購ひ來りて栽植せしに頗る美果を結びしかば茲に大に梨樹を栽培して利益を擧げん者と思ひ立ち更に地蔵の市より梨苗六十本を求めて栽培

培し其後遂に攝津國池田地方より苗を取寄せ益栽培を擴張せり當時栽培せし種類は島田土用金子泡雪瀨川等にして明治五六年頃に於ける梨果一貫五六拾錢の價を有せり左れば梨樹栽培の収益は頗る豊富なるが故に比隣之に倣つて續々梨樹を植ゑ又黒仁樽屋桃等をも栽培し其面積一時數十町歩に達せり偶々明治十七年大海嘯の災害を被ひり一朝にして荒廢に歸す爾來改植するも生育不良にして海嘯前の如き美果を見ず明治廿二三年頃に至り遂に全く其の跡を絶つに至れり

更に又明治八年津高郡柏谷村(御津郡野谷村大字柏谷)の人山内善男は山林を開拓して桑茶柑橘梨其他の果樹を植う此際栽植せし梨は島田なりき明治十一年に至り足守なる福田龜藏より赤龍を譲り受けて栽培す又備中國小田郡今井村に渡邊淳一郎なるものあり明治十一年に至り土用金子島田大谷金子等を栽植し降て十九年赤龍の穂木十貫匁を足守より取寄せ接木繁殖して白龍と稱し自ら開拓する所の園地に栽植す爾來益良種の果樹を撰擇し植うる所の桃梨柑橘等の面積十七町歩に亘り傍ら苗圃を設けて苗木を販賣し桃梨園の名聲縣の内外に高し爾後果樹の栽培を企つるもの漸く多く明治二十二年の頃に至りては備中にては都宇窪屋(都窪)淺口小田後月賀陽吉備の一部備前にては兒島御野津高(御津赤坂磐梨赤磐)美作にては眞島大庭眞庭勝南勝田の一部等の各郡に續々栽培

培家輩出し以て縣下果樹園藝の今日あるを致せり就中赤磐郡可真村小山益太氏の如きは明治二十二年の春埼玉より梨の穂木十數種を取寄せ同時に渡邊桃梨園より梨砧及赤龍苗七十本を譲り受けて栽植し此年に仕立てたる埼玉種の梨苗は翌春豫て栽培せし夏蜜柑の間に植込み爾後年々苗木を養成して増植を計ると共に種類の撰擇剪枝肥培の術病虫害驅除豫防の方法を研究して後進者を指導せり現今梨樹栽培の本場とも稱すべき赤磐上道兩郡の如きは實に氏が誘導の結果によるもの甚なからずとす茲に又記憶すべきは明治三十年前後に於ける梨の赤星病及黒星病の襲來なり當時備前の西部及び備中方面に於ては梨樹を栽培するもの頗る多かりしも一朝病害の侵襲猖獗を極むるや當時之が防除の方法を知るものなき爲めに續々廢園するの慘狀を呈せり現今備中方面に於て梨の産出多からざるは曾て病害の襲來劇甚なりしに起因す然るに幸にして赤磐郡方面は病害の侵襲備中地方の如くならず加ふるにホルドゥ液を以て豫防し得ることを唱導せらるゝや小山氏の如きは三十三年之が使用を試みたるも其方法宜しきを得ざりし爲成蹟良好ならず翌三十四年堀農學士の指導に従ひホルドゥ液を散布して好成績を得しかば爾來之が使用日に普及し今や梨樹栽培家にしてホルドゥ液を使用せざるものなきに至れり上述の如く梨樹の栽培は病害襲來の爲に一時大頓挫を被むりたれども需要

年と共に増加し頗る有利の事業として之が栽培桃と共に擴張せられたり

第二、氣候

氣候の寒暖乾濕は土質と相俟て梨樹の詰果品質の良否及病虫害の侵襲と多大關係あり就中四月中下旬梨の開花及發芽期に於ける降雨は屢々花粉の受精を妨げ赤星病の侵害を助く五月乃至六月の降雨は枝梢の徒長を促して果實の墜落を來すことあり七八月の候に至ては溫度日々高く土地及葉面の蒸發旺盛となるが故に比較的多量の水分を得るにあらざれば屢旱害を被むり易し殊に過度の乾燥は樹の成長を妨げ花芽を生ずること多きも樹勢爲に衰へ將來の發育を沮害すること大なり而して晩夏の乾燥は梨樹の成長を抑制し花芽の健全なる發育枝梢の剛硬を助け翌年の結果を促進すること少なからず若夫れ氣温の高低に至ては其影響雨濕の如く甚しからざるも高温は果實の發育香味を善良ならしめ開花當時に於ける急激なる溫度低落は往々にして花蕾を損傷することなしとせず尙最も恐るべきは暴風の襲來にして累々たる美果悉く地に委し葉を破り枝を裂き頗る慘害を逞ふることあり二百十日前後の暴風は單に普通農作に止まらず又梨樹栽培家の最大厄日たり左に平均氣象の概略を表示す

平均温度 (攝氏)

月次	味野	岡山	高梁	勝山	月次	味野	岡山	高梁	勝山
一月	六、〇	四、六	二、六	二、〇	八月	二八、三	二八、六	二八、一	二四、七
二月	五、六	四、七	三、〇	一、七	九月	二四、七	二四、六	二三、八	二〇、三
三月	八、六	八、四	七、二	五、二	十月	一九、一	一八、六	二五、九	一三、七
四月	一四、一	一四、七	一三、六	一一、一	十一月	一三、六	一二、四	九、四	七、九
五月	一八、四	一九、二	一八、四	一五、四	十二月	八、三	六、七	四、四	三、七
六月	二二、三	二三、〇	二二、八	一九、八	年	一六、二	一六、〇	一四、六	一二、四
七月	二五、九	二六、七	二六、三	二三、六					

備考 午前十時一回観測平均なるも勝山は三回観測六時二時十時平均にして又観測年数は味野十五年岡山二十年高梁十七年勝山十一年とす

初霜及終霜の時期

観測地	初霜	観測年数	終霜	観測年数	期間
味野	十一月十九日	十一年	四月五日	十一年	一三八
笠岡	十一月七日	十五年	四月十六日	八年	一六〇

井原	十月二十九日	十八年	四月十六日	十三年	一六九
尾張	十一月四日	九年	四月十三日	七年	一六〇
西大寺	十一月一日	十七年	四月十七日	十四年	一六八
岡山	十一月六日	二十年	四月十七日	二十年	一六三
惣社	十一月六日	九年	四月廿三日	八年	一六八
瀬戸	十一月五日	九年	四月廿三日	九年	一七〇
成羽	十一月五日	八年	四月十二日	八年	一五七
片上	十一月二日	十年	四月十七日	十年	一六六
高梁	十一月十日	十八年	四月廿五日	十七年	一六六
新見	十月廿九日	十七年	四月廿九日	十五年	一八二
落合	十一月廿二日	三年	四月廿二日	四年	一五二
津山	十一月一日	十七年	四月廿九日	十四年	一七九
勝山	十一月一日	八年	四月廿二日	八年	一七四
倉敷	十一月一日	十八年	四月廿七日	十七年	一七七
上長田	十月十九日	十一年	五月八日	十年	二〇一

最高低の極 (攝氏)

	岡山	味野	勝山
最高温度	三五、六	三六、一	三七、七
起日	二十七年八月十二日	三十一年八月十四日	三十五年七月卅日
最低温度	負 八、一	負 五、八	負 一一、一
起日	二十八年二月廿二日	三十七年一月廿六日	三十四年二月四日
観測年數	二〇	一六	一一

第三、地勢及土質

本縣の梨樹は畿内以東と異り大低山腹丘陵の地を開拓して栽植せるもの多く従て多少の傾斜面を有せざるはなし由來本縣に於ける果樹の栽培は當初不毛地の利用を目的として始まれるものなれば假令適量なる畑地ある地方と雖も可成山林を開拓して之に果樹を植畑地は依然他作物の栽培に使用せられたり

而して果樹栽培の利益他の畑作物に勝ること遠きを認識すると共に漸次既望の畑地にも栽植を企つるものを生じたるも這は其一部を占むるに過ぎず左れば梨園の大部分は

殆ど傾斜地にして傾斜の度緩なるものと雖も十度内外其急なるものに至らば往々三十度を超ゆるものあり方位は必しも一定せずと雖も東南に面するもの最も多く西又は北に向ひたるもの亦少からず而して方位の如何は傾斜の度大ならざるに於ては梨樹の發育結果上格別の差違を見ず

土質は多く花崗岩の風化せる粘壤土乃至砂壤土にして多少の礫を混ず左れば土壤は餘り輕鬆ならず土層亦深からざるも排水概して可良にして又有機質に乏し偶々河流の沿岸等に栽培せるもの等に至ては砂質にして上層深き沖積土なることあるも斯るものは單に一小局部に過ぎず

第四、種類

本縣に於ける梨樹栽培の創始以來今日に至る迄蒐集せられたる種類は其數和洋種を通じて數十の多きに達せるも其中自ら適否あり殊に市場の嗜好により支配さる、事頗る多く漸次淘汰せられ今日にては僅かに數種を残すのみ從來果物市場に於ける嗜好の狀態を視るに程度尙幼稚にして重きを外觀に置き香美の如きは寧ろ第二位に置かる、の傾向あり左れば成可大形にして圓形又は扁圓形を呈し果面の滑澤なるものは歡迎され

之に反して小形なるか或は洋梨の如き歪形のものには香味の如何に拘らず擯斥せらるゝが故に主として栽培せらるゝものは實に斯かる資質を有するものならざるべからざりしが現今需要者の嗜好向上し外觀よりも品質に重きを置くに至らんとせり然れども本縣に於て大形晩熟久貯の性ある赤龍が最大部分を占むるは畢竟今日の如く一般果物産出潤澤ならざりし當時に於ては春より初夏の候に至る迄最も新鮮なる果物に乏しく爲に此時期に出で來る貯藏梨の如きは最も市場に歓迎せられ栽培家の收益亦少なからざりしに由るべし

更に又洋梨も比較的古くより栽培せられたるも其多くは結果期に入る年數長く結果力稍和梨に劣るものあり偶々結果するものと雖も殆ど市場に於て顧みるものなかりしかば之が栽培は遅々として進まず最近四五ヶ年以來中流以上の人士に其良質なることを認めらるゝと又浦盤斯德方面に輸出して其成績の良好なると共に栽培家亦培養の衝を會得し今や漸く之が栽培に着目するものあるに至れり現今本縣に於て最も廣く栽培せらるゝ和梨を左に掲げ其内數種に就て解説せん

眞 錄 扁圓小 赤褐滑 上 八月中旬 中 強 備考

品種名	形狀大小	皮膚	品質	熟期	收穫量	樹勢	備考
獨乙	圓中	赤褐滑	上	八月中旬	多	強	
淡雪	扁圓中	帶黃綠滑	中	八月下旬	年 <small>凶</small> に依豐 <small>あり</small>	強	
長十郎	圓中	赫滑	上	九月上旬	多	強	有望
赤穂	圓中	黃褐滑	中	九月上旬	中	中	
二十世紀	扁圓小	淡黃綠滑	極上	九月上旬	中	強	有望
萩の露	扁圓大	帶黃綠	中	九月上旬	多	強	
太白	圓中	淡綠黃滑	極上	九月中旬	中	強	有望
明月	長圓大	淡黃褐滑	極上	九月中旬	少	中	
力彌	扁圓大	帶綠黃滑	中	九月中旬	中	強	
世界一	扁圓中	帶綠褐粗	上	九月中下旬	多	強	有望
今村夏	尖圓大	淡褐粗	上	九月中旬	中	強	有望
太平 <small>泰平</small> 花魁	圓扁中	帶綠褐粗	中	九月下旬	多	強	有望
重次郎	尖圓大	暗褐黃粗	極上	十月上旬	多	中	有望
金世界	圓中	淡綠黃滑	上	十月中旬	中	強	
晚三吉	尖圓大	淡綠褐滑	極上	十月下旬	多	中	有望

赤 龍 扁圓大 淡綠褐粗 中 十月下旬 多 中 有望

長十郎、本種は神奈川県橋本郡大師川原の常麻長十郎なる者實生より選擇したるものなり樹性強健に枝梢中能く側枝を生ず花芽の生長良好豊産なり果は円形大果にして玉揃宜しく外皮薄くして赭色なり果肉白色質緻密にして稍堅きも漿液多く甘味強し而して本種は其味に於ても中熟種中の優品たるを失はずと雖も寧ろ其外觀の美なる點に於て常に同熟期の他種類よりも歓迎せらる貯蔵力乏しきは本種の缺點なり九月上旬成熟す赤穂、本種は樹性強健にして豊産なり果は円又は扁円形をなし大なり縦に四條の深溝あるを以て他種と容易に區別し得外皮は薄綠黄色なれども日元に面せる部は赤褐色を帶ぶ果面滑にして灰白色の斑点密に散布す果肉は白色質緻密硬粒少なく柔軟なり酸味少なく頗る多漿にして品質良好なり九月上旬成熟す

二十世紀、本種は樹性稍強健なるも往々病害に犯さるることあり枝梢中花芽の着生可豊産なり果は圓形中果にして黄綠色を呈す果肉純白色にして質緻密柔軟甘味にして漿液多く口中に入れば溶くるが如き感あり一種の優味あり永貯蔵に堪へず九月上旬成熟す同熟期の他種類よりも歓迎せらる

大白、本種は樹性稍強健なれど往々病害に犯さるることあるを以て豫防に注意を要す

枝稍中にして花芽の着生稍可なり果は圓形肩の部少しく狭小なり外皮は淡綠黄色にして褐色を帶び果肉は純白色にして質緻密柔軟等孔は心に通ず硬粒少なく稍酸味あれども甘味強く品質頗る良好なり本種の缺點とすべきは果皮薄きが爲損傷し易し故に採收荷造りに最も注意を要す九月中旬成熟す

明月、本種は加賀國の原産にして本邦種中の最美に位する良種なり樹性強健なれども往々黒星病に犯さる、ことあり枝梢太く徒長し易く結果少なきの癖ありと雖栽培法適當せば豊産なることあり果は楕圓形にして大果なく上端の凹み淺く下端に凹み甚だ淺し有蒂にして底部に小孔あり心空に通ず外皮は淡黄褐色にして皮膚滑かなるに不均全面に高底あり果肉は純白緻密にして硬粒を存せざるを以て食するも口中に滓殘らず心環最も小にして漿液甚だ多く甘味強し九月上旬成熟す本縣北部地方に於ては翌年一月頃迄貯蔵することを得るも南部地方に於ては長く貯蔵に堪はず

世界一、本種は樹性強健にして枝梢中花芽の着生最も良好にして爲に主枝の伸長を損ずることあり故に太平と同トく幼樹の際は充分施肥して主枝の伸長に力むべし果は扁圓形大果にして外皮完熟すれば帶綠褐色なれども多くは綠色を帶ぶ果肉は白色にして肉質緻密ならざるも殆んど硬粒を存せず漿液多けれども僅かに酸味あり形狀品質共に

良好なり九月下旬成熟す

太平、(泰平又花魁)本種は樹性前種の如く盛ならずと雖ども枝梢稍々太く花芽の着生最も良好なるが爲に主枝の伸長を妨ぐことあり故に肥料を充分に施し幼樹の際は主枝の伸長に力むべし豊産にして果は扁圓大果にして玉揃稍不良なり外皮厚くして稍粗帯緑褐色にして果面の點紋比較的大なり果肉は外部に青味を持ち脆軟にして多漿甘味なれども長十郎種程濃厚ならず白糖の赤糖に於けるが如く淡泊なる處に一種の妙味あり成熟期は九月下旬なれば長十郎に次で市場に現はれ大に歡迎せらるゝを以て有望の種類なり

重次郎、(土佐重次郎)本種は高知縣の原産にして樹性强健枝梢中側枝を生じ徒長するの性あり花芽の着生好良果は橢圓形大果にして肩張り等端狭小なり外皮暗褐黄色にして果面に凸凹あり一見すれば品質粗硬なるが如きも果肉白色蒂孔通じ漿液多く柔軟にして硬粒少なし味微かに澁味あれども甘味強し本種は發育不良の果實は澁味多く全く別種の如き感あり綠蚜蟲に侵さるる事特に甚だし十月上旬成熟翌年三月頃迄貯藏に堪ゆ晩三吉、本種は樹勢頗る強健にして病蟲害に侵さるること少なきが爲前種に比し形狀に於て劣れるも品質に於て其上位にあるが故に改良を加へつゝあり果形は不正圓錐形

にして大果なく兩端狭小果梗のある處最も淺く下端の凹み稍深し外皮は粗滑にして帶緑褐色をなし且斑點を有し外觀美ならずと雖ども果肉は白色にして至て軟く味美にして漿液適度なり酸味強く澁味の感あり味ひ活潑にして口中清涼を覺ゆ貯藏するに従ひ益々美味を増加す十月上旬採收し貯藏宜しきを得ば翌年六七月頃迄も貯ふることを得べし

赤龍、本種は本縣栽培梨樹の主を占む樹勢頗る盛にして結果力强しと雖ども病蟲害に對する抵抗力弱く就中赤星病黒星病及介殼蟲等に侵され易く栽培稍困難なり果は殆んど圓形大果にして外皮厚くして稍粗なり採收當時は青綠色を呈し果肉粗にして堅く味甚だ淡泊なるも貯藏中漸次呈色して褐變す肉質軟らぎて甘味を生じ漿液多し十月中旬成熟翌年六七月の候迄貯藏し得可し

本縣下に於て栽培結實しつゝある洋梨中優良と認むるものを掲ぐれば左の如し

品種名	項目	形状	大小	皮	膚	品質	採取期	食用期	收穫量	樹勢
ブレイコース	形状	大	大	淡褐	黄滑	中	七月下旬	八月上中旬	多	強
パートレット	形状	大	大	淡褐	黄滑	上	八月	九月	多	強
チコッセスタング	形状	大	大	帶綠	黄粗	上	九月	十月	多	強

ボーレーアルチー ルイス、ボンヌ、ダ ブランシエー	ル コ ン テ	オ ノ ン ダ カ	キ ル ダ ー	キ ー フ ア ー	ド ワ イ ア ン ヌ、 ジ コ ミ ス	ド ワ イ ア ン ヌ、 チ ヤ ー	ラ フ ラ ン ス	ル レ ク チ エ ー	パ ツ ク ラ ツ サ ン	ス ベ ニ ー ル ド、 チ ヤ ー	ユ ー ル ガ ン ド ン
短燻状	長燻状	燻状	長燻状	燻状	短燻状	圓	圓	長燻状	圓	長燻状	長燻状
中	中	中	中	大	大	大	大	大	中	大	大
褐滑	赤黄滑	黄滑	黄锈甚粗	帶綠黄滑	帶綠黄粗	綠黄滑	帶黄綠滑	綠黄锈甚滑	黄滑	黄锈甚粗	綠黄锈甚粗
上	上	下	上	上	下	極上	上	極上	上	上	上
九月上旬	九月下旬	九月上旬	九月	九月	九月	十月	十月	十月	十月	十月	十月
九月上旬	九月上旬	九月上旬	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月
多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多
強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強

前表の種類中栽培の廣きものに付き左に解説せん
 プレコーヌ(三季梨(タドンヤ)本種は樹性强健にして豊産なり果形燻状大にして果皮は滑なり淡褐黄滑色にして果肉白色緻密且柔軟なり多漿にして甘味あり口中に入るれば

溶くるが如く粕を餘さず成熟時期早きが爲め市場に歡迎せられ有望なり七月下旬採收し始め十日餘にして食することを得べし

チエス、ダングレーム、本種は佛國の原産にして千八百十二年メーソール縣に發見し千八百六十二年に至る迄親木ありしと云ふ本縣に於ては洋梨中其主を占む樹性强健にして枝梢中盃狀棚作に適し短果枝及び長果枝を生ずるの性あり豊産にして大果なく稍や丸味を帯び萼窪み稍や淺し外皮粗にして高底あり肉質緻密にして多漿味極めて濃厚なり九月中旬より採收を始め十五六日乃至二十日餘を経れば食することを得べし
 パートレット、本種は「チャンピオン」と誤稱する地方あり原産は英國の「パークシャイア」にして千七百七十年「ウィリアム」氏によりて發見せられたるものなり「パートレット」は米國に於て「ドーチエスター」なる「エノック、パートレット」氏が始めて栽培し原名を失したるに依り其人の名を冠するに至り其後原名「ヴィリヤム」と同種なるを知るに至れり樹性强健にして枝梢太く枝の發育整正「ピラミット」仕立に適す盃狀棚作も亦可なり幼樹は長果枝を生ず樹齡を加ふるに従ひ短果枝を生ず豊産なり果形は所謂洋梨形中顆にして兩端の凹み深からず果皮滑かにして淡黄色を呈す肉は帶黄色にして肉質緻密且柔軟なり甘味にして芳香高く多漿少しも硬粒なく口中に入るれば獨り溶くるに至る九月上旬よ

り採收し始め採收後十餘日を経れば食するを得べし
 キーファー、本種は亞米利加「ヒラデルヒヤ」の「ベター、キーハー」氏が支那種と「ボーレーダ
 ショウ」との交配に依りて生成したるものなり樹性强健にして枝梢徒長し易く豊産な
 り果形は紡錘形大果にして兩端少しく尖る果皮稍粗にして所々に隆起あり帶縁淡褐色
 なれども太陽に面する部分微紅を帶ぶ果肉は黄白色にして稍粗なり心に近き部分僅に
 硬粒あれども漿液多く甘味強く香氣高し十月上旬採收し翌年一月頃迄貯蔵し得べし

第五、苗の繁殖

苗木の繁殖は主に嫁接法による砧木は挿苗及實生苗の二種あり兩者の得失に就ては確
 然たる判定を下し難しと雖ども嫁接活着の歩合は挿苗實生苗に勝り本植後の發育に至
 ては實生砧挿苗に勝るもの、如し而して挿苗は元實生砧接木の際剪除せし枝梢の下部
 を長さ七八寸に切り縮め全長の半以上を地中に生け込み發芽せしめたるものにして之
 を一番砧と稱す此一番砧の剪除せる部を挿木して養成したるものを二番砧と稱す通常
 二番砧迄は使用するも三番砧に至ては成績不良なりと稱して使用せず又實生砧は一年
 生の發育良きものを供用す挿苗實生砧共に他より購入して用ふるものあり或は自ら養

成して用ふるものあり何れも揚接となす接木の時期は南部に於ては大抵三月上旬な
 り多數の園藝家は從來苗木養成者より苗木を購入するを普通とするも特に自家用のも
 のを養成するもの亦少なからず而して純然たる苗木生産者に至ては極めて少數にして
 殆ど云ふに足らず此他洋梨に對しては未だ榲桲の如き矮性の砧木を用ふるものなく多
 くは梨砧に嫁接せり開園古き園藝家にありては新に幼苗を植ゑ付くるよりも發育早き
 の利あるが故に有望の種類は大抵老木に高接を行ふもの多し左れば往々二重接乃至三
 重接の奇觀を呈することなしとせず
 近時又芽接法を行ふことあるも桃の如く盛ならず是梨は切接の活着歩合良好にして加
 ふるに新種の輸入發見等稀なるが故に急に苗木を増殖するの必要なければなり

第六、開園法

本縣の梨は山腹を開拓して植ゑ込みたるもの多きが故に開園には少なからざる勞費を
 要す左に其大要を記述せん
 一番打、冬季鶴嘴の如きものにて雜草小笹等を深く打起し若し立木ある時は大なるも
 のは根元より切り取り差支なき限り其儘に放置して自然の腐朽に委し小なるものは立

木の儘掘り去り根は土を振ひ分つなり

二番打、前回に於て残りたる雑草竹木根等を探りつゝ、精細に打起すものとす

三番打、更に一層精細に全面を耕耨す若急を要する場合には之を略して單に栽孔の位置のみを耕やすに止む又平坦の土地にして下層に粘土層ある場合などは特に栽孔の位置を耕すことをなす是其部に停水の虞あればなり

又山腹の傾斜急なる土地と雖も特種の場合を除くの外階段を設くることなし是れ柑橘等と異なり柵作仕立となすもの多く柵の接續に不都合なればなり只斜面急にして降雨の度毎に土砂流下の虞ある處は諸所に土止を作り併せて排水に便す

園の周圍は竹垣を普通とし往々杜松の剝皮せる細き丸太を用ふる事あり生垣を作るものは極めて稀なり往年梨園に杜松の生垣を造り赤星病の發生を助けて失敗したるもの少からず枳殼の如きものと雖も或は介殼虫の巢窟となり易く加ふるに其根園内に侵入して肥料分を掠奪するが故に多少の修繕費を要するも寧ろ竹木材を以て作るに如かざるべし又山林に接近せる果樹園にありては屢兎害を被むることあり斯かる場所には特に垣の目を密にするの必要あり

第七、栽 植

栽植の距離は地味及仕立方により同トからずと雖も通常柵作にありては一反歩百本内外即ち一丈の正方形植を普通とす垣作にありては畦間六七尺株間一丈二尺乃至一丈五尺のものを多しとす特に又平坦なる肥沃の地に植るものによりては株間の距離方二間即一反七十五本植を行ふものあり従前は一反歩二百本以上の密植をなすものありしも數年ならずして技梢互に交錯し光線の透射を妨げ結果力及品質を損すること大なるが故に近來の栽植にかゝるものは何れも前述の距離によるもの多し今栽植の大要を記述せん先づ一定の間隔に繩を縦横に張りて其交叉点に小杭を打ち置き栽孔の位置定まるときは右の標杭を中心として徑一尺七八寸の穴を穿ち尙其部の表土二升計りを篩ひ卸し置くなり斯くて豫て準備せる苗の根四五寸を残して切り込みたるものを配置し先の篩土を以て根を埋め根の開展せる外圍に輪狀に堆肥油粕の類を施して殘餘の土を覆ふ栽植に際し特に注意すべきは根を自然の位置に配置すること是なり苗は大抵一年生を用ふ

第八、仕 立 方

本縣に於ける梨の仕立方は其種類種々ありと雖も最も多きは柵作にして垣作之に次ぎ

短圓錐乃至圓頭形仕立は洋梨に於て之を見る各法何れも得失あり頓に優劣を判定し難きも收量多き點に至つては確に柵作を推さざるを得ず又洋梨に對しては偃曲の度強き柵作又は垣作よりも却て圓頭形仕立の如き稍自然に近き樹形を以て勝れりとす以下順を追つて其大要を記載すべし

イ柵作 本縣に於ける柵作は關東地方に於る所の水平柵架にあらずして主枝は地上一尺内外の所より約四十度の角度を以て分岐開張せしめたるものを柵竹に結着し居れり兩者の得失は一概に斷定し難きも樹齡幼稚なる間に於ては盛に下部の主枝に結果する利ある代りに樹齡稍老ひたるものにあつては下部の花芽衰弱して良果を結ばざるの缺點あり未だ合理的樹形と稱し難し左れど本縣梨樹栽培地の多くは地味瘠薄にして且乾燥し易く樹勢左迄強大ならざるが故に之を關東式の如く全然水平となすことも亦一考を要する問題なるべし今栽植後數年間に於ける剪定及柵架の順序を記せば左の如し

初年 植ゑ込みたる苗を地上一尺乃至一尺四五寸の所にて切斷し強盛なる二芽を發生せしめて主枝となす本年冬季の剪定の際分岐點より一尺内外の所にて切斷す
二年目 前年伸長せし二本の主枝より更に各二芽を發生せしめて四本の主枝を作り

冬季剪定に於て更に本年の分岐點より一尺四五寸乃至二尺の所より切斷す夏季芽の伸長中相對する枝の内側に小竹又は剪除せし枝梢を五六寸に切り其兩端を矢筈形に削りたるものを挟みて漸次主枝を開張せしむ

三年目 前年發生せし四本の主枝より各二目を發生せしめて八本の主枝を作る大抵本年の春柵掛を行ふ柵の材料は末口一寸三分乃至一寸五分長七尺の松丸太及四寸乃至三寸圓りの小竹を用ふ杭は株間の中央より稍一方に偏したる所に打ち込み其先端に縦列又は横列のみ小竹を渡し之と直角に恰も苗の直上に於て十字形に交叉する様小竹を縛し更に此竹の兩側約二尺計りを距て、小竹を縦横に縛す結縛は總べて繩を用ふ是今後柵竹の取換等に際し便なればなり又柵掛は往々二年目より行ふものあり此場合に於ては單に苗の直上に十字形に竹を交叉するに止め三年目に於て其兩側に掛添へ而して四年目に於て更に空所に二本宛掛け添へ茲に全く柵掛を完成するなり左れば株間一丈の場合にありては柵竹の各條間は恰も二尺となる割合なり爾後年々腐朽せる杭並に柵竹の取換及び結直しを行ひ主枝發育して強硬となるに及んでは柵竹に更ふるに十番乃至十一番亞鉛線を以てするものあり柵の高さは大抵五尺二寸乃至五尺五寸を普通とす

儲三年目に於て發生する八本の新梢は伸長するに従ひ各之を適當の位置に七島蘭の類にて開張誘引し其柵竹に達せるものは爾後之を水平に誘引す尙主枝の下部より發生する徒長枝は摘斷を行ひて花芽の發育を促がす本年より既に多少の結果を見るも梨樹將來の發育上多くは摘除し時に數個を結果せしむるものあり尙三年目に於て主枝の數を十二本となすものあるも斯の如きは二三年ならずして枝葉密生し日光の映射不良となるが故に善良なる果實を得難し本年の冬季に於て各主枝の先端を剪定するも這は枝を分岐せしむる目的にあらずして單に其以下に於ける花芽の着生を促がすにあるが故に従來よりも一層長く切り残り居れり

四年目 本年よりは結果期に入るが故に取扱亦多少異ならざるを得ず主枝は依然八本とし強盛なる發育を遂げしめ以て柵面を填充すると共に一面良質の結果枝を作らざるべからず結果枝の成生上最も緊要なる作業は綠枝摘斷にして果實の發育及樹液の經濟的利用上忽にすべからざるは綠枝剪除なり前者は主枝の側芽に對し樹勢に依り五月下旬より七月中旬頃迄に二三回行ひ後者は主枝の柵に達する迄其他主枝の上より發生する徒長枝は夏季隨時に之を行ふものにして全然主枝に接する部より剪除するなり本年の冬季剪定の際結果枝の長さものを短縮し不良の枝を除去し主枝の

尖端を切り込む事前年に異ならず冬季剪定は害虫驅除中耕施肥等に先ちて行ふ必要あるが故に落葉を待ちて可成速に之を行ふ爾後本年と大差なし唯花芽年を経るに従ひ多岐簇生するが故に一叢芽中の新しく且發育良きものを殘して他を剪去するか如き特種の作業あるのみ

右は柵作に於ける整枝及剪定法の一斑にして現今にては一二の變形法あり即傾斜の度急なる所によりては上方に向ふ主枝と下方に向ふ主枝とは著しく其角度を異にし爲に樹勢の均一を破り易きか爲最初地上一尺二三寸の處より主枝を二本に分ち之を左右傾斜面に頂角に開き更に一尺五六寸の處より二本に分ちて四本となし之を直長せしめて五尺餘に達するときは之を傾斜地の上方に向て柵に誘引すること恰もカンデラーブと柵作りを折中せるが如し此の場合に於ける各枝の間隔は二尺となす

□垣作 垣作にも種々ありと雖も最も普通なるは「バルメット」即ち肋骨形仕立なりとす此法によるものは畦間を六尺乃至七尺とし株間を一丈二尺乃至一丈五尺とす初年に於て地上一尺五寸の處より切斷して三芽を發生せしめ内二枝を左右に水平に誘引し一本を直長せしめて二段目の造成に資す冬季左右の二枝は各其尖端約三分の一を剪除し中央の一本は一段目より一尺上りたる所にて切斷し翌年此部より三芽を發生

せしむること前年に同ト斯くて毎年一段宛作成し通常四段に至て止む垣は栽植の當年畦の兩端及四五間置に一ヶ宛稍丈夫なる杭を打ち込み之に地上一尺五寸の處より一尺置に十三番亞鉛線四本を張るものとす本法によるときは光線の映射佳良にして病虫害の驅除豫防其他萬般の作業に便利なるも下段の枝年と共に衰弱し爲に收量多からざるの缺點あり茲に於てか或は枝を水平に誘引することなく少しく斜行せしめて其缺點を補はんとするものあり或は最初地上を近く二本の主枝を前後に分ちて伸長せしむること一尺五六寸更に其先端を左右二枝に分ち都合四本の主枝の高さ四尺計りの所迄斜長せしめ隣接せる枝の先端と相接するに至りて止むる等當業者の仕立方に對する苦心亦察するに餘あり然れども未だ廣く行はるゝに至らず垣作の一種にして株間三四尺の短距離にて栽植し單に二本の主枝を斜長して互に隣接せる枝と交又せしむる矢來形仕立あり之を要するに仕立方は今尙研究中に屬す

ハ圓頭形仕立 現今洋梨及苹果等は専ら此仕立法によるも日本梨に至ては極めて稀なり最初地上一尺餘の處にて切斷し之より三枝又は四枝を發生せしめ全く自然の發育に委すことなく多少人工を加へて枝を開張せしめ爾來二三年間枝の先端に花芽を生ずる頃迄は常に主枝を剪定して樹形を作り既に樹形成るに及んでは止むを得ざる

枝の外は剪定を加ふることなく寧ろ自然の發育に放任するなり斯くて枝の先端に結果し始むるときは漸次下部に花芽を生じ盛に結果するが故に此時を待て更に適宜の剪定を行ふものとす

第九、耕耘及間作

中耕は冬季一回備中鋤にて全面を耕鋤す遅くも施肥前即ち二月上旬頃迄に行ふの必要あり除草は夏季雜草發生の状況により四五回之を行ふ山地を開墾せるものは地味一般に瘠薄なるが故に特に間作を行ふことなきも畑地を供用せるものにありては栽植後二三年間は各種の作物を間作するものあり而も一定の作物あるにあらず除虫菊の如きは果樹の害虫驅除用として將坊間販賣する所の蚤取粉蚊遣線香の原料として多大の需要あり好箇の間作物たりと雖も未多く栽培するものあるを聞かず落花生の如きも種類の選擇にして好ければ又適當の間作物たるを失はざるべし

第十、肥料及施肥法

肥料の種類及施肥法は梨の生育結果に甚大の影響あり當業者各之が研究に腐心せるも

我邦に於ける園藝學尙幼稚にして一の據るべき標準なき爲唯過去の經驗を基礎として處理しつゝあるは又止むを得ざる事なるべし多數園藝家の經驗によれば窒素肥料としては油粕類一般果樹に特效ありとし其他動物肥料就中骨粉の如きは窒素分の外磷酸の含量多く加ふるに其効力持久的なるより之を使用するもの亦少なからず概して窒素質肥料は其効力稍持久的なるものを賞用し偶合窒素性人造肥料を施用するものと雖も是等の追肥として肥効の迅速ならんことを求むる場合に於てのみ施用せらる此他魚肥類をも施用することあれば概して價額貴き爲め油粕類の如く歡迎せられず堆肥に至ては多少に拘はらず施用し居れり蓋し梨園の多くは有機質に乏しきが故に堆肥の施用は土壤の理化學的性質を良好ならしむるに缺ぐべからざればなり又梨樹に對しては特に給與を怠らざるは磷酸及加里成分なり其用量普通作物に比し頗る多く磷酸分は窒素の一倍半乃至二倍加里分の二倍半乃至三倍土地により一様ならざれども内外を以て三要素配合上の標準となすもの多きが如し而して磷酸は主に過磷酸石灰を用ひ加里分は木灰硫酸加里等より採る八九年後の成木にて一反歩に對する窒素分の施用量三貫乃至四貫肥料價額貳拾五圓乃至參拾圓に達す

施肥は大抵年一回二月中に行ふを普通とするも近時冬季に於ける施肥量を減つて其一部を追肥として梅雨後に用ふるものあり其成績可良なるが如し

施肥の方法は幹を中心として深さ四五寸の溝を掘り廻はし之に肥料を入れて覆土するにあり而して木の成長するに従ひ漸次輪を擴大し互に相接するに至れば畦間を縦横に掘りて施肥す

第十一、摘果及袋掛

五月下旬乃至六月上旬摘果及袋掛を行ふ摘果は一果叢中の形狀正しく發育良好なるもの一個を残して他を摘除す仕立方により主枝の數少なきものにありては時に二個を残すものあり袋は夏梨は新聞紙を用ひ秋梨は日笠と稱する楮紙を用ふ何れも無底にして澁を引きたるものなり袋は野外の業務閑散の時を見計らひ自ら製造するもの多し新聞紙は紙質良好なるものを選び多くは八つ切となす和紙を用ふるものは大果は縦八寸横一尺一寸中果は縦七寸横一尺のものを二つに折りて縁着張となす貼附には澁糊を用ひ澁引は八升澁桶一斗に水八升の割合位の澁桶を使用す而して澁引の際袋の一端四五分許の所は袋掛に便ならしめんが爲澁引をなさす

袋掛は主に婦女子の手に依て行はる六寸許に切りて潤はしたる藁を以て袋の一端を果

梗に緊縛す此際緊り方悪しく隙間あれば介殼虫等の侵入する虞ある六々園主小山益太氏は先果梗に粗綿を纏ひたる上より袋掛を行ひて介殼虫の侵入を防ぐことを案出せるも稍手数を要すること多きが故に未廣く行はるゝに至らず多くは一端を潤はし又は暫時土中に埋け込みて濕氣を吸収せしめて結束に便ならしむ近時又廿四五番亞鉛線を一寸五分餘に切斷して用ふるもの多し此法によるときは圃を以て縛するが如き繁雜なく非常に手数を省略し得るの利益あり此法は明治三十年頃御津郡横井村の人石谷來吉氏の創意による一日の行程圃を用ふるものは一千乃至千五百枚針金を用ふるものは二千枚乃至二千五百枚最も技の秀でたるものに至ては優に三千枚に達す熟練の功亦驚くべきにあらずや

第十二、病害并驅除豫防法

梨樹は概して病害に侵され易く就中赤星病及黒星病の爲め惱まざるゝもの多し一般に北部實冷の地方には黒星病害甚しく南部温暖の地方には赤星病の害劇甚なるが如し左に其大要を記載せん

梨赤星病（赤斑病、アカテ）

梨の葉に發生する病害にして被害葉は始め其表面に光澤ある橙黄赤色の小斑点を生ず後其裏面は漸次隆起して數十本の淡褐色の角状の小突起を生ず病斑点より數多簇生するを以て恰も葉面より總を生トたる如き觀を呈す此小突起は後に其上部裂けて淡褐色の粉末を散す

發病は通常四五月の交にして若し病斑の數多きときは葉は栗褐色に枯死して速に凋落し爲りに樹勢衰へ果實は完熟すること能はず

本病は杜松、ビヤクシン等の枝幹に附着せるキクラゲの如きものと連絡あり此等のものは春季梨の開花頃より降雨の度毎に膨脹して寒天状となり黄色の微粉末を飛散す此粉末は梨の葉に附着して發芽し葉肉内に蔓延し約十日乃至十四五日にして針頭大の病斑点となる而して日を経るに従ひて漸次其大きさを増し葉の組織軟弱なるときは生長も速かにして病斑も大なり

キクラゲ状のものは落花後暫くにして殆んど墜落す此ものは最早黄色の粉末を生せず即ち本病の傳播の最も劇しき時期に開花時分より落花後約二三日までの間なりとす豫防方法

一春季花蕾の破綻せんとする時より落花後約四五日に至る頃迄の間降雨の模様ある毎

に砂糖ボルドウ液を葉の表裏より撒布すべし

砂糖ボルドウ液調合量

硫酸銅 百貳拾匁

生石灰 約六七十匁

白下糖 百匁

水 三斗

一、窒素質肥料の施用多きものには發病被害特に多きを以て其用量に注意すべし、

一、梨園の附近に杜松ビヤクシン等の檜柏類を栽植すべからず、

二、黒星病 (黒斑病クローテ)

本病は梨の葉及嫩梢果實果梗に發生する病害にして、*ジエンソワリア、ヒリナ*と稱する病原菌の寄生に依り起るものにして本病は我國梨樹栽培地の何れの地方にも發生すれども寒地に於ては其被害甚だしと云ふ被害部は暗綠色を呈せる斑点を生じ漸次擴大して黒褐色に變りて表面粉狀をなす葉に於ては主に葉の下面の中肋及支脈並に葉柄に生ずる果實果梗に生じたる場合は黒斑は後乾燥し裂片となりて脱落するに至る甚しき時は枝の尖端枯死するに至ることあり黒褐色の病斑部よりは盛に胞子を放散し迅速に傳染す天

候濕潤なるときは傳播一層速なり本病は墜落枯死せる病果病葉中に子囊殻と稱する凌

冬性の胞子を藏するものを生じ翌春發芽前後より胞子を飛散す又嫩梢を侵したるもの

は菌糸組織中に越冬し翌年更に胞子を生ずと云ふ

驅除豫防法

イ、被害果實及葉嫩梢は冬季集めて焼却すべし

ロ、二斗五升式ボルトウ液を左の時期に於て撒布すべし

第一回芽の破綻する時

第二回開花前

第三回落花後直に

ハ、肥料の配合を適當にし窒素質肥料を過用せざることを

ニ、比較的病害に犯されざる良品種を撰ぶべし

第十三、虫害并驅除豫防法

一、幹枝ヲ害スルモノ

イ、介殼虫

梨樹を害する介殼虫の種類は數種ありと雖も就中劇甚に被害するものは「サンホーセ」介殼虫桑介殼虫とす

(第二編桃の虫害欄参照)

天牛類

はしかみきり

形態

成虫 体長九分乃至一寸 体軀は光澤ある深黒色を呈し翅鞘には大小通トて四十餘の灰白點紋を散在し前胸節より幅遙かに廣くして其面には數條の小黑凸起を縱走し翅鞘基部には顆粒狀の小突起を有し前胸背には灰藍色の二紋を裝ひ其兩端には各一個の棘狀突起あり觸角は長く一寸七分餘にして二節より末端に至るの各節の内半は灰藍色にして外半は黒藍色脚は何れも強大にして長く多少藍色を呈し跗節に於て殊に然りとす腹部も同しく灰藍色を呈し末端は少しく翅鞘外に露出せり

幼虫 円筒形にして長さ一寸一分餘着色は淡黄なり頭部は小にして其前縁は暗褐を呈し第一驅節は大形にして殆んど半円形をなし其前縁は暗褐條を横走し同條の後縁には二凹あり又同驅節の中央には山形をなしたる波狀線ありて之と後縁との間は黄褐を呈す

第四乃至第九驅節の背腹兩面の中央には一種特異の皺を存し胸腹兩脚は共に之を缺ぐ

驅除豫防法

一 幼虫は幹枝内に寄生し其材部を食し虫害を加ふるものなれば被害幹枝の外表面には必ず虫孔を穿ち木屑を漏出すれば此の虫孔より灌注器を以て石油又石油乳劑を注入す

へし

二 晝間樹枝に靜止するものを急に動搖すれば墜落するの性あり故に打落捕獲法を行ふ

へし

三 該虫は柳をも害するものなれば時々同樹を搜索して母虫を捕殺すべし

四 卵子のある處は樹皮浮上するを以て看破する容易なり

梨のるりかみきり

形態

成虫 体軀円筒形にして長さ四分五厘頭胸及腹部は橙黄色なるも翅鞘は藍色にして金屬性光澤を帯び黒色の細き毛を以て被はる複眼は黒褐にして大少二眼に分たれ細長黒線にて相連る觸角は黒色にして十一節より成る脚は強大にして橙黄色を帯ぶ

幼虫 幹枝内に寄生し縦横に孔を蝕開き虫害を加ふるものなり其生活年限は分明ならずと雖も大抵其産出より二ヶ年目の八九月に至て老熟し幹内に於て蛹化し従て成虫となるが如し

幼虫の老熟せる者は長六分餘あり頭部は小形にして暗褐色を呈し胴部は淡黄にして其前後兩部は均く幅廣きも中央部の幅は稍や狭き傾あり第一軀節は特に大形にして其背面に存する「キチン」板は淡褐色にして之に長方形に區劃せられたる場所ありて之に數條の細線の縦列するものあり尙ほ密に細小の點紋を存せり胸腹兩脚は何れも之を缺けり

驅除豫防法

一、該虫按幹内に寄生する時は其面必ず蟲孔を開き木屑を漏出し又は樹皮下の木質部を蝕害するに當つては樹皮内は木屑にて滿され爲めに樹皮は起き上り或は破れて木屑の漏出するを見るべし故に此特徴を呈する時は樹皮を剥ぎ取り木屑を除去して害虫を殺すか又は虫孔薬液注入を行ふべし

二、蟲孔より銅線を衝入して驅出すべしと雖も虫孔の屈曲せる場合は害虫潜伏の場所まで之を達すること容易ならず

りんごのかみきり

形態

成虫 体長六分全体濃黄色にして頭觸角翅鞘の大部及尾節は黒色を呈し觸角は割合に長くして畧体長と同く翅鞘の末端に各一個の棘狀突起あり前胸は円柱形にして短く棘狀突起なし六七月の頃に顯はれ嫩枝の外皮を破り木質部に孔を穿ち各一個の長楕円形の卵子を納め後ち前の外皮を以て復た巧みに之を覆ふ幼虫は數日の後ち孵化し下部より梢上に向ふて蝕害するの傾あり嫩枝の髓部を蝕害するを以て其局部は爲めに枯死し時に大害を加ふることあり八月下旬に至りて老熟し次で蛹化す蛹は淡黄色にして其儘越年し翌春に至りて羽化す

幼虫 初めは淡黄色にして光澤を有し充分成長するときは淡褐色となり一寸餘に達す

驅除豫防法

該虫は重に樹枝に蠶入するの性あり而して葉上にある虫糞は其存在を示すものなれば注意して驅除すべし

ハ、皮もぐり蛾

形態

成虫 体長一分五厘翅の開張三分五厘あり体軀は灰黄色を呈し白色鱗毛を以て覆はる前翅は殆ど長方形をなし前縁より後縁に亘りて數個の白色と淡褐色との斑紋を交互に配列せり翅の先端には特に長き縁毛を存す后翅は前翅より稍短く且つ巾狭くして先端尖れり一面の淡褐を帯び斑紋を有せし縁毛は頗る長し觸角は細長くして長二分あり灰白色を呈す複眼は黒色なり脚は灰白色にして數多の黒色斑紋を存せり

幼虫 全体黄綠色にして頭部は淡褐を帯ぶ体軀扁平にして各關節間は細く緊縮せり又各關節の兩側には數個の微毛を存す脚は退化して甚だ小さく肉眼にては殆ど存在を認めざる程なり老熟すれば体長約三分に達す

蛹 長二分あり黄綠色を呈し頭部及尾端は尖小なり又觸角部は中途にて体より離れて長く二條の絲線をなせり

成虫は年二回の發生にして初め五月下旬頃より幼虫の存在を認め其後六月中旬に至り老熟して皮下に蛹化し次で六月下旬頃より羽化成虫となる之れ第一回の發生にして其後第二回の成虫は八月下旬に發生するもの、如し成虫の樹皮に産卵するや之れより孵化したる幼虫は表皮下を蝕害しつ、順次彎曲して絲狀の長孔を穿ち老熟すれば皮下に繭を營み茲に蛹化す繭は少しく中高き扁平楕圓形をなし其表面は枯死したる樹皮を附

着すれども下部は茶褐色を呈するを普通とす

蛹は約二週日を経て羽化す斯の如く樹皮下を匍匐蝕害するが故にやがて其部分の表皮枯死して遂に剝離するに至る

驅除豫防法

此虫は比較的發生の時期相均しく餘り不規則ならざるもの、如し且つ幼虫老熟して蛹化せんとする頃に至らば樹皮は著しく剝離するを以て一見して之れを認むることを得べし蛹化期に至り此剝離せる部分を除去するときは大抵一個の繭の附着せるを發見するを以て此時期を見計ひ蛹を採集するときは多數に捕獲することを得べし

二、花葉及嫩芽を害するもの

1 梨葉捲虫

形態

成虫 小形の蛾にして長ケ二分六厘翅の開長六分二厘体軀は淡灰綠色なるも胸部は淡褐を帯ぶ複眼は黒大にして下唇鬚は前面に伸出す各腹節の背面には一小黒點を存し前翅は灰色にして淡緑を呈し其内外兩半には淡灰黄緑の波狀線數條を前縁より後縁に向ひ走らし且前翅の中央には一個の短黒線を存せり後翅は灰色なるも其外半は着色稍や

濃厚にして淡灰黄緑を呈せり

幼虫 四月中旬頃より現出し梨樹を初め榲桲等に棲息し其嫩葉を二ツ折となし其両縁を接し絲縷にて之を綴りて巢となし之に潜伏し葉の組織を食とし蟲害を加ふるものなり五月中旬頃より老熟し巢中に化して蛹となり同月下旬蛾化す

幼虫の老熟せるものは長ク八分餘あり頭部は稍や扁平にして淡褐を呈し胸部は淡藍緑なるも第一驅節の背板は頭部の着色に均くして二小黑點を存し第二及第三驅節には小黑點を横列し其餘の驅節は亞背線に二個氣門上線に一個胸脚の根基に一黒點を存し之に一毛を生ず又氣門下線には長楕円の灰色斑ありて之に三小黑點を存し每點に一毛を具ふ

驅除豫防法

一 幼虫蛹の巢を摘除潰殺すべし

二 落葉後幼虫の越年する處には必ず一枚の枯葉を附着せり故に之を採取焼却すべし

梨の葉蟲

なしトらみ

形態

成蟲 体長八厘乃至一分二厘着色は様々なれども先づ暗褐なるもの普通なり頭は黄褐にして大形の複眼を有し單眼三個ありて色は黄赤を呈し二個は複眼の内側に接し一個は額縁にあり觸角は黒褐絲狀にして長く十節より成り基部の二節は太く末端に二刺あり前胸背は頭より細く弓形の黄帶あり中胸背は廣く中央に四個の黄線ありて兩側にあるものは少しく内方に弓形をなすを以て稍円形に近し腹部は黄色にして各節黒帶を有し尾端は黒色なり翅は大にして尾端外に出て半透明縁紋は黒褐翅脈は暗褐なり脚は暗黄腿節は黒色灰色の微毛あり

幼蟲 充分成長するときは一分二三厘に達す楕円形にして兩側に各重疊せる二個の翅痕を有す頭は割合に大にして兩側に赤色の複眼を具へ觸角は成蟲同様に十節なれども短かく同じく末端に二翅あり初めは暗黄にして斑紋なく形は圓柱狀に近しと雖も第一回の脱皮を経るときは固有形を現はし體は暗褐色にして白色の背線を裝ふ尾端に刺毛多し年二三回の發生をなすものにして成蟲の有様にて越年す翌春顯はれ葉若くは枝に黄色長楕圓形の卵子を相集合して産下し一雌の卵數大凡六七十顆なり卵は八日乃至二週間にして孵化し若き枝の基部に相重疊して液汁を吸収し大害を加ふることあり第四回の脱皮を終へ成蟲となる幼蟲は甚だ遲鈍にして蚜蟲同様に液汁を吸収すれども成蟲

は跳躍するの性を有し甚だ活潑なり

ひめなしトらみ

形態

成蟲 體長七厘乃至九厘色は様々にして綠色なるあり或は又赤褐なるものもあるなり複眼は灰色にして紫褐紋あり單眼は赤色觸角は黄色にして第四節より七節迄は末端黑色第八節より第十節迄は全体黑色なり黄褐なるものは胸背の兩側に各三個の黒紋を有し此は少しく凹陥す背上には黄色の縦線あり腹部は綠色にして黄色帯を横走す綠色の種類は暗黄紋を有す翅は透明にして微小黒紋を散在し縁紋を欠ぎ翅脈は淡黄褐色なり幼蟲 充分成長するときには八九厘に達す地色は淡緑を混トたる褐色にして緑白の背線を有すれども其若きものは地色白色にして少しく綠色を帯び眼は赤色頭には二個の淡紅條を縦走し其内に黒褐紋を連ね翅鞘及び腹部後方の大半は黒褐腹部には黒色の長紋六個を横走す尾端縁には刺毛を列す觸角及び脚は暗黄なり經過は未だ判然せざれども卵子の有様にて越年し翌春に至り孵化するもの、如し兎に角く札幌地方にては五月中旬頃より顯はれ稚枝に相集合し其液汁を吸収す此は蚜虫同様に密液を分泌するものに

して爲めに蟻及び蠅の集來せるものあるを見る

驅除豫防法

- 一 石油乳劑の二十倍液を灌注すべし
- 一 除蟲菊加用石油乳劑の四十倍乃至五十倍液を灌注すべし

ハ、たんばいむし

形態

成蟲 小形の半翅虫にして長け八厘あり體軀は稍や扁平にして頭胸の兩部は共に暗灰褐にして腹部は濃赤褐を呈し其側部は赤色なり頭部は比較的小形にして複眼は赤く觸鬚は濃灰色にして五節より成り短毛を密生し第四節は他の四節を合せたるものよりも長し前胸節は著しく發達し其左右の兩側よりは半圓形翼狀の薄板を出し且其背面には前後二個の附器を具ふ前者は表皮膨起して囊狀を成したるものにして後者表皮薄片となりて龍骨形に屹立す此等の附器の左右には一個の白縦線を走らせり前翅は透明なるも剛くして網狀の翅脈を存し大小の灰褐斑紋を存す又た前翅の前縁の中央は少く凹みたり故に靜止する時に當り前翅を地平に横へる時は體軀の全形は軍配に酷似す故にぐんばいむしの名稱あり此蟲は六月下旬の頃幼蟲と共に梨葉の裏面に多く棲息し之より

養液を吸収して蟲害を加ふるものなり

幼蟲の老熟せる者は長け六厘あり其形は殆ど紡錘形にして幅廣く扁平なり着色は淡黄にして暗褐及び黒色の斑紋を具へたり頭部の前面には三刺を生じ複眼は赤く觸鬚は著く長くして五節より成り其第四節は細長くして他の四節を合せたる者より遙に長しとす前胸節は長け短くして幅廣く其左右兩側より各々一刺を出したり又前胸節の背線の後半に一壘を屹立し其前端より二刺を出せり翅鞘は殆ど楕圓形にして少く彎曲し其内外兩縁に接しては暗褐の斑紋を存したり腹部は其背線に四刺を具へ其側面には六對の刺を具ふ且腹部の背面の中央には大形の長黒斑を具へたり

驅除豫防法

- 一、冬季枯葉繩等の間に棲息する者なれば果樹園の掃除をなし集めて燒棄すべし
- 二、ミドリアブラムシの驅除法を適用すべし

二、蚜虫類 (梨綠蚜虫)

形態

成蟲 體驅は稍や扁長にして長九厘頭胸の兩部は暗灰褐にして複眼黒く三個の單眼中一個は額上に存し他の二個は一個宛複眼の内側に接存す胸部は稍や堅大にして膨起し四

翅は透明にして翅脈は灰褐なり前翅は長くして體長の一倍半餘あり縁點は灰黒にして靜止するときは前翅は合掌形にして體上に相接して横はる第三の斜翅脈は二分し後翅の前縁に存する鈎は八個なり腹部は扁大にして幅廣く灰褐なり其中央部の左右は少く凹み第一腹節の背面には一對の大黒斑を存す第三、第四及第五の腹節の背線は黒く第五第六の腹節の左右には一個宛の大黒圓斑を存す其中央に綠色乳頭狀の排蜜管ありて同管は褐色にて繞圍せらる腹部の末端をなせる二節は黒色なり又胸腹兩部の側面は鮮綠色を呈し体皮には淡黄の細長毛を被り脚は何れも細長にして同く淡黄細長毛を生し特に後脚は著しく長形にして長け他脚に倍し其脛節は最も細長なりとす

幼蟲 六月頃より出で梨葉に止まり葉裏の主脈に沿ひ多く連列し葉の液汁を吸収す今被害の葉面を視察するときには固有の綠色消失して青白き斑紋を呈すべし此幼虫は數次蟻皮したる後七月上旬頃に至らば遂に有翅の成蟲となる

幼虫の禿若なるものは長四厘強體驅は稍や扁長にして頭胸及腹の幅は皆均し頭部及前中の兩胸部は淡灰褐を呈し複眼は紅色にして觸鬚は四節より成り第三節は極て長し後胸節及腹部は白色にして其背線及左右兩側には淡綠斑を存す前中の兩脚は稍や短きも後脚は著く長形にして毎脚長毛を生す幼虫の老なるものは長一分二厘あり體驅は殆

んど紡錘形をなし頭部は小にして淡黄を呈し複眼は黒く觸鬚は八節より成りて第三節は極めて長し胸節と腹節とは其形狀着色等に於て大差なく其背面に二個の藍緑大班を存し左右両側にも同色班あり第五腹節には乳頭狀の低腫起ありて之に排蜜孔を開き各乳頭の下部には藍緑班を存せり体觸鬚及脚には各々長細毛を生せり

驅除豫防法

葉を上面に捲くもの下面に反轉せしむるもの裏面の葉脈に沿ふて連列するもの等あり何れも慘害を逞ふするものなれば發生の初期に於て左の藥品を灌注すべし

一 石油乳劑の三十倍乃至四十倍液を灌注すべし

二 煙草石鹼合劑の十倍乃至二十倍液を灌注すべし

三 除虫菊加用石油乳劑七十倍乃至八十倍液を灌注すべし

ホ 蟻 蟲

形態

成蟲 體長四分五厘翅の開張九分前翅は細長にして三角形を呈し地色は灰黒中央部の翅脈は判然し黒色を帶ふ後翅は小にして暗色觸角は暗褐にして羽狀を呈し眼は黒褐にして突出す頭及び胸部には暗褐の長毛あり腹部は黒褐にして細長く兩側に長毛あり尾

端には角質の附屬物ありて突出す雌は體長六分無翅全體暗黒色を呈し形圓柱狀にして肥大し宛然卵子袋の如く羽化するも巢内にありて出でず

幼蟲 充分成長する時は七八分に達す地色は暗黒頭は黒色にして額片は赤褐なり初めの三節は發達し殊に第一節に於て然りとす其色は黄白にして褐紋を散在す尾節の硬皮板は黒く稍や長方形を呈し第四節より以下各節に黒色の疣狀紋ありて殊に氣門上には各一個の大なるものを有し氣門下には小なるもの二個あり氣門は赤褐第一節の氣門は大にして横置せられ胸脚は赤褐にして發達し殊に第三節にあるものは甚だ大きく各一個の爪あり腹脚は退化し尾端の兩側に黒色の圓形紋あり頭及び始めの三節に黒褐毛を粗生す二年に一回の發生をなすものにして幼蟲の有様にて巢内に越冬翌春小なるものは新芽に集まり軟葉を食ひ時に大害を加ふることあれども既に一ヶ年の星霜を経來りたる大なるものは翌春巢内に蛹化する此場合には必ず頭部の位置を轉して巢口を樹枝に固着し蛾化するの際は幼蟲の嘗て出入せし口の反對部を破りて出す蛹は雄にありては黒褐にして細長く尾端曲り頭部は大にして背部に粗毛あり雌にありては恰も蜂の幼蟲の如く且つ翅鞘を有せず腹脚は痕跡判然す雌は羽化するも巢内に止まり雄の來るを待ち交尾を終て産卵し其儘死去す卵子孵化すれば先づ母體を食ひ後外氣に出で絲を以て

小枝を縦り巢を造りて其内に住す幼蟲脱皮の回数は未だ判然せず脱皮するとき胸部の中央縦裂し之れより脱殻す又巢の狹隘を告ぐる場合には一側を縦に破り之れより増室するもの、如し

驅除豫防法

- 一 晩秋落葉後樹枝より垂下するものを驅除すべし
- 二 早春稚葉に亞硫酸銅の如き毒藥を灌注すべし此害蟲は被袋の内にあるを以て毒藥の外の藥劑を用ゆるも餘り効なし尤も之れは茶若くは開花期の場合に行ふべからず

へ キンケムシ

形態

成蟲 體長五分乃至七分翅の開張一寸一分乃至一寸六分體翅共に白色にして時に前翅と後翅と相接する所に相隔離して二個の暗色紋を有し前縁の裏面も同トク暗色なり又た尾端には黄色の毛ありて殊に雌蟲に多し

幼蟲 充分成長する時は一寸四分餘に達す地色は黒褐にして背線及び氣門線は黄赤を呈し第四及び第五の背上に光澤ある毛塊を裝ひ背線の兩側に於ける毛塊には白色毛を混ず體の兩側には疣狀突起ありて之れより各灰黒相混せる多數の粗毛を簇生す其氣門

線上に於ける疣狀突起は紅色なり頭は光澤ある黒色にして胸脚端は黄色なり

驅除豫防法

- 一 冬季樹皮の剝離せんとするものを取り去るべし此内に粗繭を以て蔽はれたる幼蟲越冬す

二 八九月頃卵子は母蟲の黄毛を以て蔽はれ葉下にあれば注意すべし

ト イラムシ

形態

成蟲 小形の蛾にして長け三分翅の開張八分六七厘あり頭胸の兩部は黒色を呈し觸鬚は細長くして黒く短櫛齒を具ふ腹部は圓筒形にして灰黒色を呈す前翅は同脚三角形をなし薄黒色にして透明なるも翅縁は黒色なり後翅は三角形にして其着色は其翅と異ならず

幼蟲 五月頃より現出し集合して常に梨萃樹等の葉裏の葉縁層のみを蝕害し通常幼蟲は絲繭を吐き葉を豎に折り其兩縁を縦り合せて柏葉餅の狀を成す故に此葉をカシハト云ふ六月上旬に至らば巢内に蟄して蛹となり同月中旬より續々化して蛾となるなり幼蟲の老熟せる者は長け七分あり背面は黄緑にして腹面は淡橙色を呈し背線は黒く各驅

節の亞背線及氣門上下の兩線には各々一個の瘤ありて之に粗毛を群生し且亞背線と氣門上線との間には一個の黒圓紋を存したり

驅除豫防法

- 一 冬季樹幹にある繭を採り壓殺すべし
- 一 七月頃葉裏にある卵塊を注意して採り焼却すべし
- 一 幼蟲は樹を動揺すれば落下すれが故に之を集めて殺すべし
- 一 布片に石油を浸し之を堅き繭に塗抹して殺蟲すべし

子 ハキリ蜂

形態

成蟲及幼蟲 ハキリ蜂は長け五分翅の開張七分二厘あり體軀は幅廣くして灰黒色を呈す頭部は扁圓にして觸鬚は黒く十二節より成り其長け長からず複眼は暗褐にして單眼は橙黄なり胸部は殆ど圓形にして四翅は淡灰褐を呈し比較的小形なり脚は太くして厚く毛を生じたり

此蜂は八九月頃現出し梨薔薇芍薬牡丹等の葉を巧みに圓形に咬み切り之にて屋根裏土居葺等に圓筒形の巢を營み巢内には淡紅褐色の蜜(花粉及花蜜の混合したる者なるべし)

を入れ室内に楕圓形の卵一顆を産み入れ置くなり斯くて卵子は孵化して幼蟲出つれば巢内の蜜を食して成長し遂に老熟して巢中に化して蛹となり十月中化して成蟲となる

ハキリ蜂の營みたる巢は圓筒形にして其一端は圓く他端は扁平なり全く咬み切りたる圓形の葉片にして製したるものにして其長けは六分許ありて幅三分あり

驅除豫防法

營巢の時期を探知し之を搜索蒐集して驅除すべし此蜂の葉を咬切るは容易に目撃し難きが故に蜂を捕獲すること難しとす但葉を咬切る爲めに葉上に止まるものあらば烏糞を竹片の一端に塗付け之にて捕獲するも可なり

三、果實を害するもの

イ 梨の象鼻蟲

形態

小形の象蟲にして長け六分五厘あり體軀は殆ど紡錘形にして暗赤褐を帯び密に黄色の短毛を被むる頭部は頗る小形にして口吻短く觸鬚は末端太くして臂形に彎曲す前胸節は殆ど楕圓にして前縁は幅狭く頭部に均く後縁は幅廣くして前縁に倍せり翅鞘は腹部

の全面を覆ひ長楕圓にして翅尖りたり其面に數條の點線ありて且黃短毛を密生す脚は何れも強大にして大腿節は著く發達す

年一回の發生をなし蛹にて越年し羽化し五六月頃より顯はれ梨の花蕾新芽等を集りて之を蝕害すること甚しく後に長吻を以て果實に孔を穿ち後尾端を其孔に入れて一個の卵子を産附し果實の着生せる部分及び小枝の中半或は枝皮の一部を残して咬み切るが爲め果實は日を経るに従ひ凋萎して地上に落下し幼蟲は腐敗の果實を食盡し後果外に出で土中に入り球狀の土繭を造り越年し翌年五六月頃羽化成虫となる

驅除豫防法

- 一、成虫の發生せざる前に於て果實に紙袋を掛くべし
- 二、早朝寒冷紗其他布類にて製したる袋を受け其樹を動搖して之れを集め殺すべし
- 三、落下せる果實は全部拾ひ集めて燒棄すべし
- 四、晩秋に至り根邊を地下二三寸まで攪拌すべし

梨のモンクイ蟲

形態

成蟲 小形の蛾にして長け四分翅の開張九分五厘あり頭胸兩部は暗灰紫色にして觸鬚

は絲褐を呈し下唇鬚は前面に伸出す腹部は淡灰紫色なり前翅は灰紫色にして翅面には二條の白横線の前縁より後縁に向ひ走れるものありて兩線の間には一小黒點を存す尙は各線の兩側は暗紫褐を帶ぶ翅の外縁は沿ふて小黒點を一線に連列す

幼蟲 五月下旬乃至六月上旬頃より現出し梨果内に寄生し其果肉を蝕害す此蟲害に罹りたる梨果は成長停まり果面は淡黒色を帶び且つ蟲孔の穿てるものありて之より蟲糞の漏出せるものを見るべし被害果を開き見る時は蟲糞を充たしたる蟲房ありて果面の蟲孔に通つたり幼蟲は六月下旬に老熟し加害の梨果内に化蛹し從て蛾となるなり
幼蟲の老熟せるものは長け五分四五厘あり圓筒形にして暗赤褐を呈したり頭部及び第一軀節の背板は黒褐なり第一及第十一軀節に開ける氣門は著大なり
蛹は赤褐にして長け四分餘あり

驅除豫防法

- 一、梨果に袋掛を行ふべし
- 二、被害果は深く土中に埋むるか或は燒棄すべし

但し此害を受けたる果實は黒色の蟲孔を有し褐色糞を出すを以て容易に認むることを得

三、梨果凋落後に於て石油乳劑三四十倍液を灌注すべし
四、冬季落葉後卵子を採收し燒却すべし

梨果蠹蟲の調査

(岡山縣立農事試驗場調査)

本調査は本縣最も多き梨果蠹蟲(シシイムシ)を飼育中本種と桃心折り蟲及摘果袋掛當時に於ける桃果蠹蟲との關係を調査研究せるものにして今左に其概況を記述すべし

第一、梨果蠹蟲の飼育調査 (第一次)

一、幼蟲採集及飼育

明治四十一年十二月十七日赤磐郡可真村果樹栽培家大石廉氏の梨苹果の果實貯藏庫内果實入大櫃の孔竅に蟄伏せる果蠹蟲の幼蟲と認むるものを採集し試験管内に入れたるま、越冬せしめたるに春季化蛹し四十二年四月三十日に至り黒灰色の小蛾(體長一分五厘内外翅の開張三分七八厘)發生せるを認めたりこの小蛾をば五月三日洋梨アレキサンダー種の果實を花枝端と共に大形の「ホヤ」を以て覆ひ底部は綿上部は寒冷紗を以て成蟲の逸散を防ぎてこの内に投入し置き「ホヤ」の外部より常に注意せるに五月二十二日に至り一頭の小さな幼蟲果面を匍匐しつゝ、あるを認めたり爾後果實に蝕入するを認め

ざりしを以て六月二十日「ホヤ」を取り除き之を検するに果實に蝕入したるの痕なく却て花枝端に蝕入したるもの、如く少しく蟲糞を漏出せるを認めたるを以て再び「ホヤ」を覆ひ置き其後之を検するに死滅せしか或は逸散せしか不明となりし

二、成蟲採集及飼育

梨貯藏庫内に於ける前記の小蛾發生の狀況を知るが爲め四十二年五月十九日赤磐郡可真村果樹栽培家小山益太氏の梨貯藏庫に就て調査したるに前記の小蛾と同一なるもの多數羽化し南面の窓障子に多數北面には少なし集まりたるを見るこの小蛾を多數採集し今回は桃果實の附着せる新梢に大形の寒冷紗の袋を覆ひ其中に採集し來れる小蛾を五月二十五日に放養し爾後の經過に注意したり

六月二十日に至り寒冷紗の袋を除きて検するに袋内五本の新梢端三本迄は「心折れ」即ち新梢は蟲の蝕入を被りて黒褐色に變り被害部以上は折れ曲り其葉は枯死して茶褐色を呈し萎縮す(其中一本は幼蟲未だ小さく被害枝内に潜みたれども他二本のものは既に幼蟲辭し去れり然るに袋内の桃果は果蠹蟲の被害を受け袋底に落下したるを認む六月二十九日この落下したる桃果を取り出して検するに多數の蟲孔ありて樹脂と蟲糞とを漏出せり而してろの蟲糞中に繭様のものを營みて蟄伏せる一頭の幼蟲を認めたる

を以てこの幼蟲を硝子管中に入れ「コルク」栓を與へたりしに好んで木栓中に喰入せり
七月十一日に至り該管内の「コルク」栓中より成蟲羽化せりこれを前記梨果貯藏庫内に發
生せる小蛾と比較するに全然同一なるものなり

第二、摘果袋掛當時に於ける桃果蠹蟲飼育

五月十九日赤磐郡可眞村にて梨貯藏庫内小蛾發生調査の爲め出張せし際は摘果袋掛の
作業中なりしが桃の果實に蝕入せる果蠹蟲の被害も亦尠少なからざる事を目撃し之れが
果蠹蟲を蝕入の桃果と共に多數採集歸場採集して硝子管に入れ木栓を施して歸場せる
に其の一晝夜間に於て大部分は木栓を蝕ひ破りて逸散せりし歸場後一顆づゝ、硝子管に
入れて綿栓及「コルク」栓を施し飼育に着手せり

六月一日に至り右硝子管内の幼蟲を検するに何れも既に桃果より出で木栓を施せるも
のは木栓中に蝕ひ入りて蛹化し居り綿栓を施せるものは綿栓中に入りて幼蟲のまゝ、潜
伏せり依りて是れには更に「コルク」栓を與へしに好んでこの内に蝕入せり而して六月十
五日乃至十六日に檢するに羽化して成蟲となれりこの成蟲を梨果貯藏庫内に發生せる
小蛾と比較するに是れ亦同一なるものなりし

更に五月三十日眞庭郡川東村原田高一氏の果樹園に於て桃の果蠹蟲を採集し(其際同氏

の梨果貯藏庫内を検するに小山氏の庫内に於けるものと全く同一なる小蛾發生しつゝ、
ありして歸場せしに幼蟲桃果より出でたるを以て硝子管に入れ之れにも木栓を與へし
に直ちに蝕入せり六月十六日硝子管を検するに之れ亦前者と同一なる小蛾發生せり

第三、桃心折蟲の飼育

五月十九日赤磐郡可眞村小山氏の倉庫内にて採集せる小蛾を桃に放養せるを六月
二十日に檢せし際桃の嫩梢に梢折を生せしを以て(前文参照)更に桃心折蟲の調査に
着手せり

其ノ一

六月二十二日當場果樹園に於て桃の嫩心を被害せる桃心折蟲の幼蟲を採集し試験管内
に入れ「コルク」栓を與へたりしに好んで之れに蝕入し七月六日成蟲發生す

其ノ二

六月二十九日當場果樹園に於て桃心折蟲幼蟲の充分生長したるものを採集し試みに梨
果に針金にて孔を穿ちこの内に入らしめ硝子瓶中に入れ置きしに一時果中に入りしも
の、如くなりしが暫時にして梨果より出で瓶の上部に絲を吐き居りしを以て「コルク」栓
を給せしに之の内に蝕入し七月二十日羽化して成蟲となれり

其ノ三

七月二日桃心折蟲幼蟲の蟲未だ小なるものを採集し桃果に孔を開けて與へしにこの内に蝕入せりこのものは其後桃果より出で果面に蟲糞様のものを附け其中に蛹化せしが七月二十日羽化せり

其ノ四

七月二日桃心折蟲幼蟲の小なるもの一頭を採集して硝子瓶中に入れ梨果に孔を穿ちて與へたるに之の内に蝕入し七月二十日頃羽化せり而して梨果の内容は少しく蝕害せられたるを認む

其ノ五

七月二日更に桃心折蟲幼蟲の老熟せるものを採集し硝子瓶中に入れ桃果に孔を穿ちて與へたりしに蝕入することなく果面の縦溝に菌様のものを營なみて蛹化し七月十五六日頃羽化せり

其ノ六

七月二日更に桃心折蟲幼蟲の老熟せるものを硝子瓶中に入れ單に「コクル」栓のみを與へしにこの内に蝕入し七月十五六日頃羽化せり而して凡て木栓を給しこの内に蝕入した

るもの、蛹の出殻を見るに何れも体を半ば抽出して羽化せるを認む

而して桃心折蟲幼蟲を六回飼育し羽化せる成蟲を貯藏庫内に發生せる小蛾及摘果袋掛當時に於ける桃果蠶蟲の成蟲に比較するに三者共同一なることを認めたり

第四、梨果蠶蟲幼蟲の飼育（第二次）

七月二十六日赤磐郡可真村より果蠶蟲の蝕入せる被害梨果五個を採集し各一個づ、硝子瓶中に入れ成蟲の羽化の時期を待ち八月十三日に至り檢せるに

(1) 小蛾二頭出現す

(2) 他の果蠶蟲蛾一頭出現す

(3) 小蛾二頭出現す

(4) 出現せず

(5) 出現せず

更に八月二十三日(4)(5)を檢するに發蛾せるを見ず依てこの兩者の内容を精査せるに幼蟲及蛹を認めず察するに幼蟲果實を齧し去りたるものを飼育せしならん前記の被害梨果より出現したる四頭の小蛾を前述の桃心折蟲の蛾等と比較するに亦明に同一なることを認めたり

第五 其他の調査

九月三日赤磐郡可真村に於て調査するに目下收穫中の梨苹果の果中には多數幼蟲の蝕入せるものあるを認めたり依て同村小山益太氏に依頼し全氏園の被害梨果の寄贈を乞ひて歸場し五六日後被害梨果到着せるを以て一々剖檢し幼蟲桃心折蟲の幼蟲と區別するを得ずを捕りて飼育繼續中にして何れも幼蟲態にて越冬しつゝあり
然るに九月三日夕刻前地に於て赤龍種の園に就て見るに前來記載せる小蛾多數飛翔し盛に交尾せるものあるを見たり

結 論

既に記載せるが如く梨果貯藏庫に發生せる小蛾と桃心折蟲の蛾及摘果袋掛當時の桃果蠹蟲の成蟲は全く同一にして且梨果蠹蟲を飼育せるに成蟲五頭中四頭までは前三者と同一なりしを以て見れば桃心折蟲は單に桃の嫩梢のみを被害するにあらずして或は桃果に或は梨苹果の果實をも桃心折蟲幼蟲飼育の際桃果梨果に幼蟲蝕入せり被害するものと認むるを得べし因に本縣至る所桃心折蟲の被害激甚にして而かも之れを摘去するもの甚なく桃の嫩梢は一として心折れを生せざるもの無きの狀況なるを以てこの種果蠹蟲の害も頗る激甚なるものならん

ハ 黒斑小椿象

形態

成蟲 小形長楕圓の椿象にして長け一分あり體軀は白色にして前胸及翅鞘の内半には黒褐暗褐等の斑紋を存したり但し頭部には赤紋を存するのみ頭部は小形にして複眼は深紅色を呈し觸鬚は長形にして五節より成り其三節は著く長しとす其着色は白きも各節の外端は赭褐を帶ぶ前胸節は殆ど半圓形にして翅鞘の内半には二條の黒褐帶紋と一個の灰色點を存し且其の後縁は黒褐色を帶ぶ

幼蟲 六月上旬頃より多く現出し梨葉に棲息し其養液を吸収し蟲害を加ふるものにして同月下旬より漸々老熟して成蟲となるものなり

幼蟲の老熟したる者は長け八厘あり體軀扁長にして幅廣く尾端は稍や細まりたり着色は純白なるも前胸節の左右及び不完翅鞘には濃褐點より成れる斑紋を存したり腹節の接線には深紅紋を存し且中央の腹節には黒褐の小點を横列す觸鬚は長く交互に赤褐と白色とにて裝せらる脚は長く其大腿節と脛節の大腿節に接する一端は濃赤褐を呈したり

驅除豫防法

幼蟲は梨葉に棲息し其養液を吸取するも敢て群棲することなく其舉動は活潑にして葉上に疾行するの特性あり之を驅除する方法は梨の綠蚜蟲と同一になして可なり

第十四、採 收

果實綠色褪消して特有の色を呈するに至れば將に其果實の成熟近きを示し成熟すれば從て之を採收せざるべからず然も營利的果樹栽培家の採收期は必しも然りと謂ふを得ず蓋し市場に於て果物山積せんか如何に良質の果實と雖も到底高價に販賣し難かるべく果物市場寂寥の際にあつては品質優等ならざるも比較的高價を以て迎へらる更に又近時走りと稱して僅かに食うに堪ふるに至れば之を店頭陳列して好果者の慾望を充たすの風漸く盛となり加ふるに遠隔の地に輸送し更に販賣者の店頭露されて遂に顧客の口に入る迄には少なくとも數日乃至十數日間其外貌を損せざるを要するが故に眞の採收期即ち成熟期を待たずして採收せざるを得ざるものあり當業者は出來得る丈高價に販賣せんが爲に或は早く或は遅く採收す左れば同一種と雖も採收期區々にして長きは一ヶ月以上に亘るものあり左に赤磐郡地方に於ける日本梨數種の熟期及採收期を對照して一例を示さん

種 類	熟 期	採 收 期 間
長十郎	九月上旬	自八月下旬至八月下旬
赤 穂	九月上旬	自八月下旬至八月下旬
二十世紀	九月上旬	自八月下旬至八月下旬
太 白	九月中旬	自八月下旬至八月下旬
明 月	九月中旬	自八月下旬至八月下旬
世 界 一	九月下旬	自八月下旬至八月下旬
泰 平	九月下旬	自八月下旬至八月下旬
重次郎	十月上旬	自八月下旬至八月下旬
晚三吉	十月下旬	自八月下旬至八月下旬
赤 龍	十月下旬	自八月下旬至八月下旬

備考 右の内重次郎以下三種は貯藏用種なるが故に熟期と採收期同一なり

營利的採收期は實に上述の如しされども適當なる採收期亦無視すべきにあらず實驗家の説によれば果實を下より擡ぐるときはポツリと音して果梗の果枝に附着する部より離る、程度のもを可とすと而して種類及採收後の目的によりても多少採收の標準を

異にせざるを得ず例へば日持悪しき長十郎の如きは常に稍早目なるを可とし赤龍其他の貯藏用種亦少しく若きを要す而も過度に若きものは貯藏中に萎凋し易く貯藏却て困難となり成熟充分なるものは久貯に堪へず左れども翌春三月頃迄に販賣し盡す場合にありては寧ろ完熟せしむる方收量増加し果實の等級販賣上の上進するが故に利益あり更に五六月頃迄貯藏せんとするものにはありては稍若きを可とす

第十五、貯藏

梨果の貯藏は被袋の儘採收し來りたるものを袋を去り病虫害果及損傷果を選別し果梗を短く切り落して貯藏箱に收容す其箱は内徑長六尺横三尺深さ二尺六寸にして用材は厚さ八分乃至一寸の松板を以て作られたる覆せ蓋付なり内部は漚紙を二三重に張り又は直に漚を引きて水分の滲透を防止す一箱約二百貫を容るゝに足る時に内面に亞鉛板を張り詰め外圍に藁蓆を張りたるものあれども温度の變化少なく冷涼なる土藏内等に貯ふるものにはありては其必要なが如し採收せる果實は成口に接して果梗を切り縮め荒方大小を撰別し疵あるものを除き右の貯藏箱に隙間なく填充す填方は底部に小形の下級品を置き上部に良品を配列し以て上部よりの壓迫による良品の損傷するを防ぐ箱

詰したるものは數日間其儘蓋を開きて過剰の水分を放散せしめたる後蓋を閉鎖す然るに其後尙果中の水分蒸發し來りて箱内に鬱滯し蓋の裏面に凝着して流るゝに至るが故に時々蓋を開きて水分を放散せしむ其時間約一晝夜内外とす之を露取又は蓋切と稱す梨果は此間に於て後熟醱酵し特有の赤褐色を呈して漸く甘味を生ず而して採收後直に詰め込みたるものは汗の來ること早く詰込遅きものは之に反す故に之が緩急を見計らひ宜しきを得ざるべからず若蓋切遅きに過るときは異臭を帶ぶるに至り早きに過れば味の出方不良なりと云ふ大抵舊節季内に二度節分後一回の蓋切を行ふ貯藏場は大栽培家によりては特に土藏を建て此内に置くものあれども小栽培家によりては屋内納屋等適宜の場所を供用し居れり而して節分頃迄は風の入るを妨げざれども其後は可成流通を遮断するを要す果實若し過度に水分を失ふて萎凋するものあるときは箱の外部より潤はして水分を給與す貯藏期の長短は貯藏場の構造果實の種類及熟度並に貯藏中取扱の良否により程度を異にするも大約左の如し

重次郎 翌年五月迄

晚三吉 同 六月迄

赤龍 同 七月迄

第十六、荷造

梨果の荷造は果實の病蟲害并損傷なきものを撰別し果梗を短く切り落し大さ同形のものを集め等級標準により上等品レツテル紙或は白紙に下等品は園にて使用せる果實被袋又は新聞紙にて一々包み堅牢清潔なる石油空箱又は之と同形の木箱を用ひ果實を填充するには一寸内外に切斷せる稻藁若しは麥稈麥稈は短時日に甚しく酸酵し熱の爲めに果物を損傷すること多ければ近來之れを使用するもの少なし又は乾草粉殼匏屑紙屑を十分入れ前に包みたる果實を埋藏し一列を終らば更らに詰物をなし果實の接觸せざる様重積して箱に滿たし最上部には殊に充分詰物を以てし蓋は一寸五分以上の釘にて堅固に打付け周圍八分以上の繩を以て横二ヶ所縦一ヶ所を各二重掛に結束し箱の見易き場所に種類顆數量目等級及生産者氏名又は園名を記入せる「レツテル」を貼付す

一箱の重量は内實四貫目總量目五貫四百目以上とす品位等級を掲ぐれば左の如し

等級	中晩生種の大玉もの	早生種の小玉もの
特等	四十九個以内	九十九個以内
一等	七十九個以内	百十九個以内

- | | |
|-----|---------|
| 二等 | 百五個以内 |
| 三等 | 百六個以上 |
| 等外品 | 蝕害其他粗惡品 |

- | | |
|--|---------|
| | 百三十九個以内 |
| | 百四十個以上 |

(本表は岡山縣果物同業組合の品位等級に依る)

第十七、販路

梨果は採取後貯藏に耐ゆるを以て敏速なる處分を要せざるも能く遠隔の地に輸送し得べしと雖も販賣の期間の長きを以て地方に於て相當消費せらるゝと各地又生産せるを以て桃果に比すれば販路稍や狭し今左に主なる仕向先を掲ぐ

- 東海道線 新橋横須賀豊橋岡崎熱田名古屋批把島彦根八幡大津京都大阪天滿同木津
- 北陸線 富山高岡金澤福井敦賀
- 關西及參宮線 奈良津山田
- 坂鶴線 舞鶴福知山
- 山陽及播但線 兵庫須磨明石加古川姫路豊岡城崎龍野上郡福山尾道廣島吳岩國柳井津
- 徳山小郡三田尻下ノ關

阿 眞 苦

哲			庭				田					
三	三	三	四	四	四	四	三	三	三	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	八	七	三	二	一	十	九	八	七	一	二	三
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

二、六九〇
三、八八〇
一、九九六
一、八四五
二〇、七一〇
一〇、八八五
七、一六三
六、二五五
三、六九〇
二、八四八
二、五六八
四、三七七
三、〇〇〇
二六、七一八
一六、三三一
九、〇〇七
一〇、一〇五
八、三六一
一、四六二
八、一四九
二、一八七
一、五九〇
二、五七七
一、四七六
二、一〇七
一、三六二
二六、四一八
一六、五〇三
九、〇〇一
一〇、一〇五
九、八、二〇九
一〇三、三一八
一三九、三二二
一三三、七一八
二二一、〇一一
二四三、九二二

五、八一三
一〇、七〇二
五、五六一
五、〇八七
六〇
一〇、千五〇
一〇、三三三
一〇、五五五
九、二二六
一、千〇六五
六、九二〇
五、二二三
六、八二五
八、六八九
七、二六八
一〇、六〇六
八、九六一
一、六〇七
一、二七〇
一、五、三九六
一、七五三
五、三三二
一、九一三
八、三三六
二、〇〇六
一〇、一六三
二二、五二二
二四、一四九

吉 上 川

備			房				上		
三	三	三	四	四	四	三	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	八	七	三	二	一	十	九	八	七
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

一、二、三、三三
九、一、四、八
八、四、九、三
七、五、五、五
七、五、一、二
六、三、二、二
二、五、二、一
一、七〇
二、九七〇
三、三七〇
三、八八〇
三、一、二、五
三、二、八、九
三、四〇八
三、三、一、五
五〇
一、七〇二
一、九〇三
一、八七二
一、八八二
一、八六五
一、五三二
一、六八五
二、三二八
二、〇一八
二、七七八

一、二、三、三〇九
九、一、四、二四
八、四、九〇九
七、五、五、一五
七、五、一〇六
六、四、四〇六
二、六、九〇三
三、三、七〇〇
二、九、七〇〇
三、八、八〇〇
三、一、二、一五
三、二、八〇九
三、四、〇二四
三、三、六〇三
一、七、〇〇六
一、九、〇〇九
一、八、七〇六
一、八、八〇六
一、八、六六五
一、五、五〇六
一、六、八一五
二、三、二二四
二、〇、二二四
二、四、七二四

四、四、四一四
三、九、四〇一
五、一〇〇
六、一〇九
五、二〇〇
二、五、六、九
一〇、六
二、九、八、四
一、五、六
二、六、五、六〇
六、一、一〇
一、二、一、六三
五、七、三、八
一、七、二、七八
一、六、〇、八九
一、七、三、〇〇九
一〇〇
五、六、五、九
四、〇、三、五
五、九、三、二
四、七、二、七
一、九、二、六
二、九、四、九
三、九、四、九
一、三、〇、一四
六、〇、四、九
七、七、七、〇

城龍上福尾廣吳岩柳德小三下門小直吉鳥久大
 崎野郡山道島國津山郡尻關司倉方塚栖米田
 井ノ

五	六一	六七	一五	四三八	六九	一七七四	一三三八	一三四	九六	四〇二	九四六	二二九	三八四〇	一〇一八	一四〇	五四	一一四	一三	一二九二	五五二
二〇四	二六八	四六〇	一七五二	二七六	七〇九六	四、五五二	五三六	三八四	一、六〇八	三、七八四	九一六	一五、三六〇	四、〇七二	五六〇	二一六	四、八五六	五二	五、一六八	二、二〇八	

熊佐別佐長朝浦其
 本賀府保崎鮮盤他
 計

二、四九六	六四	一一	七	一、一九九	一、〇〇八	五六二	二、〇八八	三〇、三二九
九、九八四	二五六	四四	二八	四、七九六	四、〇三二	二、二四八	八、三五二	二二一、三一六

第十九、收支計算

梨樹栽培の收支は樹種交通の便否及技術の巧拙等種々の事情により一様ならずと雖も最も廣く栽培せらる、赤龍の如きは大約左の如きものなるべし

梨一反歩收支計算 (棚作 百本植)

支出

一金四十七圓
 内譯

初年の支出

〔開墾費立木伐採根株堀取打起二番打三番打等〕

男四十五人一日金四拾錢

植込人夫男七人

苗百本代一本金六錢

肥料代

追肥施用人夫男一人半

除草三回女六人一日金貳拾五錢

中耕男五人

前定人夫半人

租稅

噴務器及剪定鋏各一ヶ代

害虫驅防費

二年目の支出

肥料代

施肥人夫男二人半

金十八圓

金貳圓八拾錢

金六圓

金四圓

金六拾錢

金壹圓五拾錢

金貳圓

金壹圓

金拾圓

金九拾錢

一金參拾參圓七拾錢

内譯

金六圓

金壹圓

金壹圓五拾錢

金貳圓

金七圓

金壹圓六拾錢

金壹圓五拾錢

金貳圓參拾錢

金四拾錢

金七圓

金貳圓四拾錢

金壹圓

一金四拾壹圓九拾參錢七厘

内譯

金拾圓

金壹圓貳拾錢

金壹圓五拾錢

除草女六人

中耕男五人

棚掛材料 四寸回竹五束一束七十錢
外=松杭百三十本一本二錢五厘繩代共

棚掛人夫男四人

驅防劑調製費

病虫驅害防人夫男二人女六人

剪定男一人

周圍の垣代

垣作ッ人夫男六人

租稅

三年目の支出

肥料代

施肥人夫男三人

除草三回女六人

金壹圓六拾錢
 金八圓
 金壹圓貳拾錢
 金參圓
 金四拾五錢
 金壹圓六拾錢
 金貳圓五拾錢
 金貳圓〇五錢
 金五圓
 金參圓八拾三錢七厘
 一金七拾七圓五拾七錢

中耕人夫男四人
 棚掛添及修繕材料竹十束繩代共
 棚掛添及修繕人夫男三人
 袋千枚新調一枚三厘
 間引及袋掛人夫男半人女一人
 剪定第四人夏季剪定共
 驅防劑調製費
 驅防人夫男二人女五人
 租稅雜費
 荷造販賣費上物賣上高の二割半以下之に做ふ
 四年目の支出

内 譯

金拾五圓
 金貳圓
 金參圓拾錢

肥料代
 施肥人夫男五人
 除草中耕人夫男四人女六人

金七圓五拾錢
 金壹圓拾五錢
 金四圓五拾錢
 金壹圓六拾錢
 金參圓五拾錢
 金參圓七拾錢
 金貳圓八拾錢
 金四拾錢
 金八拾錢
 金拾貳圓
 金拾壹圓五拾貳錢
 金八圓
 一金九拾五圓參拾五錢
 金拾八圓
 金貳圓六拾錢

袋三千枚内五百枚古袋修繕使用二千五百枚新調
 間引及袋掛男一人女三人
 棚の修繕竹五束杭三十本繩代共
 棚の修繕人夫男四人
 驅防劑費
 驅防人夫男三人女十人
 剪定人夫冬夏季共男七人
 採收人夫男一人
 撰別及貯藏人夫男二人
 貯藏箱一ヶ新調
 荷造販賣費
 租稅及雜費
 五年目の支出
 肥料代
 施肥人夫男六人半

金參圓拾錢
 除草及中耕人夫男四人女六人
 金拾參圓五拾錢
 袋六千枚内千五百枚古袋修繕使用四千五百枚新調
 金貳圓參拾錢
 間引及袋掛男二人女六人
 金五圓
 柵の修繕材料
 金壹圓六拾錢
 柵の修繕人夫男四人
 金四圓八拾錢
 驅防劑費
 金五圓七拾五錢
 驅防人夫男五人女十五人
 金參圓六拾錢
 剪定夏冬兩季男九人
 金八拾錢
 採收人夫男二人
 金壹圓參拾錢
 選別及貯藏男二人女二人
 金貳拾參圓
 荷造及販賣費
 金拾圓
 租稅及雜費
 一 金百四拾五圓四拾五錢
 六年目の支出
 肥料代

内 譯

金貳拾貳圓

肥料代

金參圓貳拾錢
 施肥人夫八人
 金參圓拾錢
 除草及中耕男四人女六人
 金貳拾壹圓
 袋一萬枚内七千枚新調三千枚古袋修繕使用
 金四圓拾錢
 間引及袋掛男四人女十人
 金五圓
 柵の修繕材料
 金壹圓六拾錢
 同上人夫男四人
 金六圓
 驅防劑費
 金八圓貳拾錢
 驅防人夫男八人女二十人
 金四圓
 剪定人夫男十二人
 金壹圓六拾錢
 採收人夫男四人
 金參圓貳拾五錢
 選別及貯藏男五人女五人
 金拾貳圓
 貯藏箱一ヶ新調
 金參拾八圓四拾錢
 荷造及販賣費
 金拾貳圓
 租稅及雜費
 一 金百九拾六圓參拾九錢
 七年目の支出

金貳拾六圓	肥料代
金四圓	施肥人夫男十人
金參圓拾錢	除草中耕男四人女六人
金參拾參圓	袋一萬六千枚内一萬千枚新調五千枚古袋修繕使用
金六圓四拾錢	間引及袋掛男六人女十六人
金五圓	棚の修繕材料
金壹圓六拾錢	同上人夫男四人
金八圓	驅防劑費
金拾壹圓四拾五錢	驅防人夫男十三人女廿五人
金四圓八拾錢	剪定男十二人
金貳圓八拾錢	採收入夫男七人
金四圓八拾錢	選別及貯藏男七人
金拾貳圓	貯藏箱一個新調
金六拾壹圓四拾四錢	荷造及販賣費
金拾貳圓	租稅及雜費

收入

初年及二年目收入なし二年目に於て既に結果なきにあらざるも將來の爲結果せしめざるもの多し

一金拾六圓參拾貳錢	三年目の收入
掛袋千枚の八分留り一個六十枚平均と見て總量四拾八貫	
内上物八割三拾八貫四百枚此價拾五圓參拾六錢一貫=付金四拾錢換	
屑物二割九貫六百枚此價九拾六錢一貫=付金拾錢換	
一金四拾八圓九拾六錢	四年目の收入
掛袋三千枚の八分留り	總量百四十四貫
内上物百拾五貫二百枚此價四拾六圓〇八錢	
屑物貳拾八貫八百枚此價貳圓八拾八錢	
一金九拾七圓九拾貳錢	五年目の收入
掛袋六千枚の八分留り	總量二百八十八貫
内上物貳百參拾貫四百枚此價九拾貳圓拾六錢	
屑物五拾七貫六百枚此價五圓七拾六錢	

一金百六拾參圓貳拾錢
 掛袋一萬枚の八分留り
 六年目の收入
 總量四百八拾貫
 内上物參百八拾四貫此價百五拾參圓六拾錢
 屑物九拾六貫此價九圓六拾錢
 一金貳百六拾壹圓拾貳錢
 七年目の收入
 掛袋一萬六千枚の八分留り
 總量七百六拾八貫
 内上物六百拾四貫四百匁此價貳百四拾五圓七拾六錢
 屑物百五拾參貫六百匁此價五拾圓參拾六錢

收支對照表

年次	收入	支出	累年收支 差引損益
初年	0	0	000,000
二年	0	0	000,000
三年	一六、三〇〇	一〇、六〇七	同
四年	四八、九六〇	一三、四九七	同
五年	九七、九二〇	一五、九二七	同
六年	一五、二〇〇	一五、九〇七	同

七年

三六、一三〇

一九、五九〇

四九、八七七

同

備考 以後收入に於て多少の増加を見るべきも支出に於ては増加することなく殊に必要なる設備を終れば幾分か減額するを得べし
 上表に依るときは植付後七年目に至るも收入總額尙支出總額に及ばず今後一二年にして眞に純益あるに至る割合となる左れども實際に於ては園主及家人に由て行はる、業務多ければ之を所得中に加算するときは優に六七年目に於て純益を見ることが得べし
 本計算は支出稍多きに過ぐるやの感ありと雖も近時病虫害の侵襲を被むること多く殊に諸物價並に勞働賃金の騰貴は園主をして非常の苦痛を感せしむるものあり亦以て不當の計算たらざるを信せんとなす亦其收入に至ても結果極めて良好なるものに至ては優に一千貫を越ゆるものある代りに病虫害の被害劇甚なるものに於ては時に收穫皆無に近くものなしとせず價額亦種々の事情により一高一低あり一概に率すべからずと雖も上に擧ぐる所は其中庸を採りたるものなり看者之を諒せよ

大正四年五月十三日印刷
大正四年五月十五日發行

編輯者 岡山市大字上西川町貳拾七番地
林重平

印刷者 岡山市大字船頭町八拾貳番地ノ一
安井宇吉

印刷所 岡山市大字西中山下百五拾四番地
山陽活版所

326
84

終